

研究集録第7集

昭和45年度

改訂指導要領実施のための
— 具体的方策と問題点

— 指導計画の改善に資する —

昭和46年3月11日

東京都小学校特別教育活動研究会

目

次

- I 学級会活動と学級指導との関連をどのように図るか 1
- II 児童会活動と学校行事との関連をどのように図るか 27
- III クラブ活動における4年参加をどのように実施したらよいか 51

— 今までの研究集録一覧 —

- 第1集 特別教育活動における指導計画作成上の諸問題（39年度）
- 第2集 特別教育活動の本質をふまえた指導計画のあり方（40年度）
- 第3集 特別教育活動の本質をふまえた望ましい指導計画と実施計画（41年度）
- 第4集 望ましい指導計画による実践事例とその考察（42年度）
- 第5集 望ましい指導計画による実践事例とその考察（43年度）

研究集録によせて

東京都小学校特別教育活動研究会

会長 保科明敏

本会の研究活動には、都内各地区における研究活動の助成と、本会が自ら行なう研究活動の二面があります。

前者につきましては全都的な視野にたつてそれぞれの地域において、この面の研究が活発になり教育水準の向上を期待して計画的に実施しているものであります。最近ようやくその意図するところが各地にしんとうしてまいりましたことをよろこばしく思います。

後者につきましては、昨年まで5カ年間のテーマとして「特別教育活動の本質をふまえた指導計画、実施計画のあり方」をとりあげ、これを学級会活動、クラブ活動、および児童活動の3分野について研究をすすめてまいり、5カ年間の連続研究が一応昨年をもって終わったかたちとなりました。

本年度は、46年度より実施される指導要領において、従来の特別教育活動の分野が、相当に変化いたしますので、ここに視点を置いて研究を進めてまいりました。即ち学級会活動においては、学級指導との関連を、クラブ活動においては4年生の参加の問題について研究するなど、46年度への移行といふことに、相当に比重力をおいた研究をすすめました。

本集録をまとめるにあたり、会員の中からそれぞれ全都的な見地から同好者相集まり、各自それぞれ学校の仕事の忙しいにもかかわらず、夜おそくまで研究会をもつなど真剣に取り組んで立派な成果をあげていただいたことに對し、厚く感謝を申しあげたいと思います。

会員の方々には、この集録の内容を検討していただいて毎日の教育活動にすこしでも役立ててくだされば幸いと存じます。

“本年度の研究をかえりみて”

専門部長・南多摩郡多摩第二小学校長

奥 田 勉

都特活の研究集録も回を重ね、本年度で第6集の発行を迎えた。

第1集の「指導計画作成上の諸問題」からはじまり、「特別教育活動の本質をふまえた望ましい指導計画と実施計画，実践事例とその考察」を課題としてとりくみ，43年度の第5集発行をもって主題の研究を，一応終わることとした。

本年度は，小学校学習指導要領の改正が公布され，移行措置期間の第1年目でもあり，必然的に新学習指導要領の精神をくんだ特活でなければならぬということから，「新指導要領実施のための具体的方策と問題点」が，研究主題としてきまったわけである。方法として，学級会，児童会，クラブの三部門ごとに自主テーマをきめて研究をすすめてきた。学級会活動は「学級会活動と学級指導との関連をどのようにはかるか」，児童会活動は「児童会活動と学校行事との関連」，クラブ活動は「4年参加の対策と，組織運営，施設などの問題点」をテーマに，それぞれ，実践をとおし，新指導要領実施の方策と問題点を解明した。

45年度は，移行措置の第2年目であり，本年度の研究を足場に，更に，実証的に研究を深め，46年度の新指導要領実施に際し，まごつかないように思っている。今後の問題として，新指導要領の精神を考え，特活の特質からみた人間形成，人間論など，本質にせまる論議をつくし，特活を再吟味するよい機会にしたいと考えている。ともあれ，本年度の研究内容は，現場の切実な，今の問題である。活用していただき，皆さんに，少しでもお役に立てばと期待している。

おわりに，研究に参加していただいた先生方に，心から謝意を表します。

I 学級会活動

学級会活動と学級指導との関連をどのように図るか

1. ま え が き	3
2. 内容別指導の現状と、その方策	4
(1) 学級会活動と、給食指導	4
(2) 学級会活動と、清掃指導	11
(3) 学級会活動と、学校行事（遠足）の事前事後の指導	15
(4) 学級会活動と、その他の学級指導	20
3. あ と が き	26

○ 研究経過

10. 7 (火) 幹事総会, 部会
 ○研究部長, 副部長等の選出, ○今後の研究の進め方の検討
- ① 10. 21 (火) 千, 芳林小
 ○本年度の研究の方向づけと, 今後の研究計画の検討
- ② 11. 11 (火) 台, 黒門小
 ○学級指導と学級会活動についての活動内容の検討
11. 27 (木) 千, 芳林小, 佐藤弘教諭の研究授業
 ○学級指導と学級会活動との関連, 4年楽しく食事をする計画を立てる。
- ③ 12. 1 (月) 千, 芳林小
 ○学級指導と学級会活動のあり方について具体的実践事例による考察
- ④ 1. 16 (金) 千, 芳林小
 ○具体的実践事例による考察のまとめ, ○研究集録の編集

研究執筆者名 (学級会活動研究部)

研究部長	岩下 紀夫	世, 弦 卷 小	幹事	山中 忠雄	渋, 笹 塚 小
副 "	小林 順一	大, 中 富 小	"	石田 正子	杉, 西 田 小
" "	甲賀 春明	板, 板橋第二小	"	蛸井 聡	北, 北 園 小
幹事	佐藤 弘	千, 芳 林 小	"	佐藤 秀夫	練, 練馬第二小
"	渋谷 昇	港, 桜 小	"	土肥 岩男	足, 興 本 小
"	菅井 健	" 檜 町 小	"	赤羽栄四郎	葛, 北 野 小
"	沖山 重次	新, 市 谷 小	"	飯泉 博	" 末 広 小
"	日比 和夫	" 落合第四小	"	間宮 辰吉	江, 東小松川小
"	小笠原潤子	文, 礪 川 小	"	佐藤 治子	三鷹, 大沢台小
"	佐藤 正雄	台, 黒 門 小	"	春日 祐文	昭島, 富士見丘小
"	飯塚 義一	江, 平 久 小	"	守屋 博行	国分寺, 第六小
"	井戸 康雄	目, 大岡山小	"	仲谷 誠一	北多摩, 大和五小
"	瑞秀 政裕	大, 松 仙 小			
"	池田 晟	" 南 蒲 小			
"	島田 泰介	世, 桜 丘 小			

1. ま え が き

1. 研究主題を決めるまでの経過

指導要領改訂とともに、特別活動の中に学校行事、学級指導が包括されることは、周知のとおりであるが、今までその関連性は認めながらも別の領域として考えて来た。しかしこのたび同じ領域の中に包括される以上、その内容、指導の方法、考え方などを明確にし、指導の重複などを避けて、教育の効果を高めようとするものである。そこで、当学級会活動研究部としては、学級指導の内容と学級会活動の関連性をあげ、指導の方策をどのように図るかをきわめようとするものである。

2. 研究への取り組み

学級指導の内容としてあげられているいくつかの項目の中から、①学校給食、②清掃指導、③学校行事（遠足）の事前・事後の指導、④そのたの指導の四つをとりあげ、これらが学級会活動の内容とどのようなかわり合いがあるのか、また、学級会活動とどのような点で異なるのかを追求し、その内容と指導の方策、対処する考え方を明らかにしようとするものである。

ただ、ここで付言しておきたいことは、この研究が学級指導の研究ではなく、あくまでも学級会活動の研究であり、学級指導が同一領域に包括されたために起こる混同や、混乱を防ぐものとしての研究である。即ち、学級会活動の性格なり指導の方法なり内容をより明確にし、望ましい学級会活動をさらに押し進め、展開しようとする意図にはかならないのである。

3. 研究途上での問題点

さて実際に研究を進めてみると、学級指導と学級会活動の相違点や分岐点に対する考え方がそれぞれの現場に於て、相当の開きがあるということである。ということは、学級会活動の望ましい姿が展開されているとは、まだまだ言えない実情にあり、学級会活動そのものがまだまだ理解されていないと言っても過言ではあるまい。児童の自発的、自治的実践活動の中に、教師の意図する結論を持った指導が展開されたり、指導計画の中で義務づけられたような活動をおしつけるようなものがあつたりすることは、望ましい学級会活動の育成を阻害する何ものでもないのである。これら学級会活動に対する考え方の相違は、実践事例をもとにした具体的な研究会をとおして一步一步改善されていくことであろう。

10月に出発したこの研究活動も、研究回数の僅少さも相まって、意図した研究成果をじゅうぶんあげることは出来なかった。研究日が今少し多くとれば、という願いは、研究に万難を排して参集した幹事全員の声であり、このことも問題点の一つとしてあげておきたい。

2. 内容別指導の現状とその方策

(1) 学級会活動と給食指導

ア. 関連性・相違性

学校給食指導のねらいと内容から、食事の正しいあり方を体得させる。食事を通して好ましい人間関係を育て、児童の心身の健全な発達に資することをねらいとし、正しくかつ楽しく食事することについての指導、給食時の清潔や環境整備についての指導などを行なうと考えられている。

では、これらの指導に学級会活動は、どれだけタッチすることができるものだろうか。つぎの表は、両者の関連を考えながらまとめてみたものである。

	学 級 指 導		学 級 会 活 動
	一 般 児 童	当 番 児 童	話しあい(予想される議題)
食 事 前 十 五 分	○教室をととのえる。 換気をする。 室内の紙くずをひろう。	○係分担をきめておく。 当番グループの中でよく話しあい、一部の児童に負担がかかりすぎないようにする。	(イ) 給食当番のきめかた 人数・順番など考える。
	○食卓づくり つくえをよせる。 テーブルクロスをかける。	○身じたくをする。 清潔な白衣・帽子・マスクを身につける。	(ロ) 給食のときのグループのつくりかた。 食卓のつくりかた。 つくえのならべかた。 美化のくふう。
	○からだの清潔 鼻をかみ、用便をする。	○身じたくをしてから、 便所にいかない。	(ハ) 手を洗う順をきめる。 グループ別に使用するじゃくちをきめる。
	○手を洗う 手洗いの順を指導する。 手洗いの指導	○手を洗う。うがいをする。	(ニ) 給食当番のやりかた 食器などはこびかた 配膳のしかた など
	○洗った手のしまつ うがいをする。	○運ぶときは正しい持ちかたで安全にはこぶ。 こぼしたときのあとしまつのしかた	(ホ) 手を洗ってからのすごし方 配膳の間のすごしかた
	○静かに席について配膳の順を待つ。	○配膳台の上に順序よくおく。……作業の手順	(ヘ) 配膳の順番(グループ順)
	○洗った手をよごさないように注意する。	○配食する。	
	○順序を守り配食をうける。 当番にもんくをいわない。	○配食する。 適量をはやくきれいに	

	<p>全員が終わるまで待つ。 当番の分もそろえておく。</p> <p>○食前のあいさつ 感謝の心をこめて行なう。</p>	<p>○配膳台の上をかたづける。 ○白衣などをかたづける。 ○食前のあいさつははっきりいう。</p>	<p>セルフサービスにするか。</p> <p>(ト) 配膳のくふう 時間を短くするために。</p>
<p>食 事 中 （ 二 十 分 ）</p>	<p>○よいしせいでたべる。 ひじをついたり、足をくんだりしない。</p> <p>○よくかんでたべる。 ○好き嫌いなくたべる。</p> <p>○食事中の不快な動作や話題に気をつける。 食事中は立ち歩かない。 くしゃみ・せきはハンカチでおおう。 食べものが口にあるときは、話さない。</p> <p>○じょうずなたべかたをする。 順序と方法 — 衛生と作法の両面から気をつける。</p> <p>○食器の取り扱いを、清潔にする。落としたものは、別のものにする。洗う。</p> <p>○楽しい気持でたべる。 放送を静かに聞きながら、小声でグループの人達と話しながら。</p> <p>○一定の時間にたべおわる</p>	<p>献立・栄養の指導は、担任が随時行なう。食事中の場合もあるし、食後の場合もある。</p> <p>学級会係り活動としての給食係(活動内容例)</p> <p>○話しあいのための原案作成 問題提起</p> <p>○栄養のはたらきなどを調べ、図表に書き、掲示する。</p> <p>○嗜好調査・残菜調べなどは、すこしでも献立作成のための資料として、児童の意見がとりいれられる体制がとれるなら、考えられる。</p> <p>○補助活動として 献立板の記入 当番が欠席したときの手伝い。 配膳台の清掃 など。</p>	<p>(チ) たべているときの話題 (リ) たべているときの話し かた。 (ヌ) おかわりのしかた。 (ル) 楽しくたべるくふう。 (レ) 給食のときの放送 — 放送部へ提案 (ロ) はやくたべ終わった人のすごしかた。</p> <p>議題としてとりあげたら</p> <p>○はじめから、教師が結論をもって、児童に話しあわせるということがあってはならない。</p> <p>○学級会で話しあわせたことは、その結論は児童の意志にまかせられなくてはなら</p>

	ようにする。 友達の速さにあわせる。 みんなが終わるまで待つ。 ○食後の休養をとる。 ○食事について反省する。	給食係と給食当番とは、 活動の内容をはっきり 区別しなくてはなら ない。	ない。 ○給食指導のための話 しあい、学級会活 動ではなく、学級指 導
食 事 後 (十 分)	○食後のあいさつ ○あとかたづけは順序よく ていねいにする。 残菜・食器のしまつ おとしたものの処理 配膳台上へきちんと返 す。 ○つくえ・いすを授業がで きるようにととのえる。	○食後のあいさつをいう。 ○配膳台上のしまつをする。 残菜を一つにまとめる。 食器かごのせいとん 牛乳びんなどのしまつ 配膳台をふき片付ける。 ○食器類を調理室にかえす。 整列して、順序よく。	(カ) 食器をかたづける順番 グループ順のきめか た。 (コ) 当番が活動していると き他のものすごしか た。 (ク) 給食について、学校 (先生へのぞむこと。)

ア. 実践例その1

- (1) 議 題 給食の時間の過ごしかたをくふうしよう。
 (2) 指導のねらい

給食が時間内に終わるよう自主的に考えさせるとともに、その実践化をはかる態度を身につけさせる。

(3) 実施計画

第28回 学級会 11月26日(金) 第5校時

議長 本尾 書記 佐原 提案者 池田

話し合いの順序 ① 開会のことば ② 提案と提案理由の説明 ③ 話し合い
 (給食の準備について—運搬・あと始末について) ④ まとめ ⑤ 閉会のことば

評価 みんなが協力して給食時間を守ろうという態度が みられるようになってきたか。

指導上の留意点・提案の理由を はっきりさせること ○安全に注意させること。

○きまったことを みんなが確認すること。

展 開

(議) 給食時間がのびるわけを教えてください。

(児) 4校時(給食開始前)が長びかないようにしてほしい。

(児) 給食の準備を早くする(当番は身じたくをし 他の者は 机を並べたり ふいたり することを 手ぎわよくやるようにしたらよい。(賛成多数)

(児) 食事中は 話をしないで食べるようにすれば 早く終わることができる。

(議) あと始末については どうでしょうか意見を言ってください。

(児) グループで食器を集めて かごに入れるようにしたらよいと思います。

(児) 食器を片づけたら当番は 机の上をふき ほかの人は 静かにして給食の終わりのチャイムになるまで待つようにしたらよいと思います。

(議) きょうきまったことは、給食の準備と あと始末について 話し合いました。きまったことをしっかり守るようにしてください。(以下略)

(4) 実践活動について

Ⓐ この議題は 遊び時間が少なくなるというところから起きてきた問題である。したがって 児童の切実な問題として活発な意見が多くでた。

Ⓑ 実践活動については きまったことをよく守り 40分以内で給食ができるようになってきた。

Ⓒ 衛生 安全 清潔 作法 栄養等についても配慮されなければならない。

イ. 実践例その2 (H校)

学級会話し合い活動実施計画 H校 4年 11月27日 木曜日 6校時

○ 議 題 楽しく食事をする計画をたてよう。

○ 指導のねらい

現在の給食に対して特に問題はないが、計画的に楽しく食事をしたいという願いが、みんなの話し合いによってかなえられるようにしたい。

○ 司会 浜田・岡野 ○ 記録 佐藤・半田

○ 予想される活動

○ 開会のことば ○ 議題の確認 ○ 提案理由の説明と質疑 ○ 話し合いの順序の確認
(グループのこと 校内放送との関係 学校放送の録音放送のこと そのほかのこと)

○ 決まったことの確認 ○ 先生の話 ○ 閉会のことば

○ 指導上の留意点 実践可能なことをよく見通して話し合うように助言したい。

◎ 展開例 (一部省略 要項のみ)

司 グループはどうしますか。

児 人数は今のようになり6人ずつでいいです。……みんな賛成

児 メンバーは順に1週毎に交替するほうがいい……みんな賛成

司 校内放送のあるときはどうしますか、放送係の日山君このことについて説明ねがいます。

児 (表にして説明)だから校内放送が終わってからも録音はきけます。

司 学校放送の録音はいつきいたらいいですか。

児 放送された日か、次の日がいいです……みんな賛成

決まったこと 月曜 ラジオ図書館 水曜 みんなの図書室 木曜 お話たまたまこ

司 放送のない日はどうしますか。

児 食事のはやくすんだ人から話をする。 児 話しをきかせる係を作るといい。

児 クイズをやったらいい。 児 手品でもいい。

児 本を読んだらいい。 ————— これらのことについてだれがやるだの、やらない人はどうするだの紛糾する。

教 今、提案されたことは、ほんとうに実践できるのか、前のことも思い出してよく考えて話し合ってください。何かかわったことをすることだけが楽しいのかどうかも……

司 先生からお話がありました、ほかに案がありますか。

児 これからはメンバーもかわるのだし今まで通り静かに話し合っただけでいいと思います。

司 賛成の声がだいぶありましたが、それでいいですか —— みんな賛成 ——

司 では、いろいろ提案されたことはもう取り上げなくともよいですか……いいですの声

(5) 問題点

学級指導と学校会活動の特質は教師の意図するもの、児童の活動にまかせられるものとしてその相違ははっきりしている点をおさえねばならない。しかし共に特別活動の集団活動における人間関係のねらいをふまえての教育活動であるから、その全体的な目標からはずれることはできない。

そこで内容別指導の現状とその方策について問題点をとりあげてみるが学級指導と学校会活動の分かれめや、また両者にまたがる関連指導事項での予想される点はその実施計画のたて方指導助言における配慮等が今後の問題点となろう。学級指導では給食指導における基本的な指導方針が学校の指導計画から更に学年学級へとむかう共通な具体的指導をおさえなければならぬものである。学級会活動の予想される内容とは自然と質を異にするものになってくる。

前記学級会活動の欄を順を追って述べてみる時、学級会として考えられる活動と望ましくない活動に分けながらその内容にふれていきたい。

(1) 給食当番のきめかた……当番活動のどこを学級会できめるかによりちがうが、給食の当番活動は学校の教育活動では教師の意図的指導の必要性が含まれ学級独自にまかせられる人数

やかっぱう着の数や準備の手順などその学校によってはちがうかもしれないが、少なくとも学年の統一は保たなければならないので、これは学級指導で行なわれる方がよいであろう。

(ロ) 給食の時のグループのつくり方……これは給食のねらいにもある 楽しく明るい社交性に つながるだいな集団生活を通して人間関係を深める活動場面の指導であるので、なるべく 学級会活動の話し合いを通して仲よしグループ的なインフォーマルなグループづくりに教師 は配慮してよいと思われる。給食指導の場合、学級指導的取扱いが多く中できわめて稀少価 値的な学級会活動だとも言える。その場合孤立児や不適応児などが任意集団にはいりこめな い時の配慮は個別指導を通してなされなければならない。

(ハ) 手を洗う順をきめる……これは(ロ)の任意グループの中でたとえば自然発生的にマナー係や 衛生係ができた時、その小グループにおせわやお願いをしたりすることを決めようという話 し合いがもたればできるが、ふつうは保健衛生の指導で担任かなされるべきであろう。

(ニ) 給食当番のやりかた……当番のしかたについて学級会の話し合い活動で公開活動等を通し、 みんなが共通なしかたの理解をさせることは可能である。これも低中学年で基本的な教師指 導ができていれば高学年ではまかせられる。

(ホ) 手を洗ってからのすごし方……これも手洗いが順よくおわって静かに教室で配膳を待つ のに児童の話し合いにまかせてしまえば、外でボール遊びをしようなどにきまってしまっ ても学級指導をすべき点を大いに指摘されるし、むしろ児童の自治的活動の範囲と教師の意図 とがあいまいになる問題の発生にもなる。

(ヘ) 配膳の順番と配膳のくふう……その当番活動のきまりとして学級会の時、やくそくをきめ ておきたい項目であろうが、前述のように当番活動内のことは学級いっせいのきまりとして また高学年では一面まかせられることも可能になるかもしれない(しかし原則としては、学 級指導の枠内になろう。)

○ 食事中の活動については、グループづくりのところで述べたが人間関係を通して楽しい 食事時における社交性から考えると、(イ)～(ウ)までは児童にまかせられる活動の場である。 したがってその中でだれがおせわをしたり、こんな係をつくろうか(あいさつ係、マナー 係、ポリウム係<話し声>、放送係、衛生係、話題係、せいとん係など)という発想、考 えに対しては 教師は児童の気持ち、学級集団のムードを尊重して助言指導をし児童の自 主的活動にまかせられることもできる。

○ 食事後の指導については、(カ)～(ク)に記述してあるがこれも食事前同様当番活動における 学級独自の問題としてでなく学級指導でふまえ、そのグループ内での手順や役割分担等メ ンバーがおたがいに協力しあえるよう教師の助言を得てなされる活動ではなからうか。

(6) 考 察

- 食事という人間のもつ本能を満足させるための場面設定が給食時であるから、このよこびを集団生活の中で配慮するだいな条件をもたなければならないと考えられる。
- 親しい友だちと食卓を囲み友人間のよさを知り、望ましい人間関係が育成されるべき教育活動の一環となるよう指導されると共に食事時のマナーは基本的行動様式として自然のうちに身につくよう指導を考えていきたい。
- おせわをすべき当番児童の意識とおせわをしてもらう一般児童の意識が給食指導を通して態度化されるよう学級指導の中で考えて行なわれる指導内容と言えよう。
- 食事グループは長期に固定せず流動的に構成するのがよいだろうが、あまり頻繁に代えては人間関係を阻害することも考えられる。
- 黒板カーテンやグループのテーブルクロス、花をかざることなど考えられるが長つづきる環境づくりでは、せいけつ、せいとん、服装などの場作りの配慮・指導もたいせつで、グループ配置の美しさも環境づくりの一つと考えたい。
- 給食指導という教育活動は大半がその目標内容に伴い、学級指導でなされるべきであろうが、その中でも当番や係り活動の特質を考え児童の発意発想を受け入れてあれば自主活動にまかせられる望ましい集団生活の場面設定については、その時を得た指導のもつ意義の深いことも考慮すべきであろう。

(2) 学級会活動と清掃指導

清掃指導は、全校・全学級の児童がそれぞれの分担する箇所を清掃することによって、学習の場がきれいになり、物的環境の整理・整頓がなされるとともに、清潔になることによって健康上安全な環境をつくるとともに、精神的にさわやかさをかもしだす働きであるといえよう。また、このねらいを達成するためには毎日毎日の身体的な活動と一定時間の範囲で終わらなければならぬ能率的な行動が要求されるのである。

このような条件を満たすための清掃指導は当然計画的であり、また組織化されたものでなければならない。学級指導はそのためのものであり、具体的な事実のもとに綿密な指導計画により、人間関係の調和と、用具・設備の充実などの相互関連のもとに、教師がはっきりとした目的をもって指導にあたるためには、次の事項をしっかりとさえねばならない。

- ① 指導事項 —
 - 学校・学級生活における清掃の意味づけを明確にする。
 - 清掃についての行動・協力のしかたを身につけさせる。
 - 清掃の方法・手順、用具の機能・使用法、清掃時間の配分などを理解させる。
- ② 指導の場 —
 - 基本的なことについては年間計画に位置づけをし、年度はじめ、学期はじめに組織・場所に応じて具体的に指導する。
 - 場に応じた指導は、教師がともに働きともに考えて問題の解決にあたり、あるとき示範しときに感じとらせることによって行動化を図る。
- ③ 指導の時間 — 基本的な事項は特別活動の年間指導計画に組みこむ。個々の現象処理は清掃の反省時と「朝・帰りの話し合い」の時間にする。
- ④ 評価 ——— ひとりひとりが自覚し、どのように変わってきたか。

○ 学級会活動への清掃指導の展開

清掃活動を支えているのは児童個々であり、ひとりひとりの自覚と積極的な行動である。児童は本来的に自主的なものであり、自発的なものである。しかし、清掃活動のような常時活動においてはほとんどの場合と惰性に流れ、受動的な行動になることが多いことも事実である。

学級会活動は「学級ごとに、全員をもって組織し、学級生活に関する諸問題を、話し合い解決し、さらに学級内の仕事を分担し処理する」活動であり、そしてこの活動は「自発的、自治的に行なわれ、学級集団の一員としての自覚をいっそう高め、健全な自主性や社会性を養い、個性の伸長を図る。また学級集団の中で自己を正しく生かし、協力しながら楽しく豊かな生活を築く。」ものとされている。このような学級会の機能をじゅうぶん生かすことによって、児童は本来の個性をよみがえらせることができるのである。

すなわち、清掃活動の場で見られる男女間の争いは、男女の性別の特質の違いから、女の子はきれいにしたい本能が先立ち、男子はほうきを遊びの道具とみたくすぐちゃんばらをするという現象が「男の子はちっともまじめにやらない。」という女の子の不満になり 男の子にいわせれば「何いってやがる。」という反撥になり、時には乱暴するという行為にまで発展する。これらは話し合うことによって（手段解決も含めて）それなら掃く仕事と雑巾がけは女の子で、机運びとごみ捨ては男の子でという解決も生まれるのである。このことは、現象を一度基本的な思考にもどし、さらに分担役割の再編成という操作から、それぞれの個性の尊重という点にも及び理解へと向うからである。さらにこのことが発展して、それでは大掃除のときは天井やらんまの高い所は僕たちの手でと創意も働くのである。このようなフィードバックによる行動の意識への転化を図る意味において学級会の果す役割は実に大きい。

学級会活動の「係りの活動」はそのねらいにおいて、清掃分担と本質を異にするが、児童ひとりひとりが自分の希望によって選び、それを責任をもってなしとげていき、学級のために尽すという働きや、そのための創意くふうなども。底流として清掃活動に共通する態度形成であるので、常にこの面での土壌の耕しは必要なことである。

○ 指導計画および実施計画

1 指導計画

学級会活動の指導にあたっては

- 常に学級生活についての問題意識を高め、実際の、具体的に問題を解決する。
- 個人差、男女間の対立などを考え、協力の必要性の理解と協力の実をあげる。
- 共同生活についての話し合いから、児童の自主性、社会性、個性の伸長を図る。

等の留意事項が生かされる配慮のもとに、学級指導との関連の上で計画化が進められなければならない。

(1) 話し合いの活動

ア 時間数 月あたり1～3回を年間計画の中に組み入れる。

- イ 関連化の観点
- ① 問題点を整理して根本を把握させる。個人攻撃やひぼうにならぬこと。
 - ② 教師は用具・設備など身近かであり、切実な発言に特に注意をはらい、対応を迅速にすること。

ウ 評価 話し合い活動の結果が、行動に無理なく反映しているか。

(2) 係りの活動

ア 活動の位置づけ 係りの活動と、清掃活動との相違点を明確にするとともに、それぞれの働きの意義を知る。

イ 関連化の観点 ○ 係りの活動で育った意識、意欲、創意性の清掃活動への転用を常に考えさせる。

○ 行動の共通点の発見に目を向けさせ共通化を図る。

ウ 評価 ——— 個人と集団とのつながりが無理なく行なわれているか。

2 実施計画

指導計画を具体化し、実効をあげるために次の項目を実施上の重点とする。

(1) 現実問題を議題化するくふう

ア 毎日の反省記録からの集約化や、リーダー間の話し合いをとおして、問題をみつめた後に共通化した議題とする。

イ 提案時間（低学年）提案箱（高学年）を設けて、個人の意志の表示がよくなされてから整理をし、さらに意見について考える時間の余裕をおいてから全体の協議にかける。

(2) 意欲を高めるためのくふう

ア 機械的な班の編成をやめ、ソシオメトリックなどをもとにした編成をし、随時補正をして欠陥を補っていく。

イ 問題提起がなされた機会をとらえ、班の解体、再編成を早日早日に行なう。

ウ 希望する部署の選択（現実には清掃場所に片寄りができるので、第1、2、3の希望を出させ、一定期間中に希望が達成されるようにする。イと併用の上で運用する。）

エ 係りの活動や、清掃分担区域を自分たちのものであるという意識を高めるため、掲示、装飾等の活動とのむすびづけをする。

○ 実践事例

(実践校) 1. 北多摩郡大和第五小学校 4年(男21名、女20名) 期間10月～11月

(ねらい) 2. どの清掃分担区域も意欲をもってしっかりやるようにさせたい。

(条件) 3. 清掃分担区域 — 自学級、1年生教室、保健室、音楽室、階段の5箇所

(註 昨年度の開設で、1年～4年までの編成の新設校である。)

(問題点) 4. 反省記録に学級以外の清掃箇所がわるいという記入が10月にはいってめ立って多くなり、それが1週間以上続いた。

(学級指導) 5. この記入がめ立ちをはじめから、朝の相談の時間には学級全体に対し一斉に学級指導をするとともに、清掃が開始される前にも注意を与えてから清掃にか

からせたが、依然として「よくできなかった。」という記録が続いた。

(学級会への手順) 6. 学級委員、各班長を集めて実情を聞くと、そのとおりであるという答えであった。いろいろ相談した結果「学級会」で全員で協議することにした。

(話し合いの活動) 7. 学級会の議題は「1年生の教室をきれいにしてやるにはどうしたらよいか」と一教室にしぼって学級会を開いた。

- (実情についての意見)
- 1年生の教室はあんまりちらばっていてやる気がしない。
 - 袋や手さげがいすにぶらさがっていてやっかいだ。
 - ときどき何人かが残っていて、ふざけたりしてじゃまになる。
 - 机の中の計数器が落ちてバラバラになるので拾うのに手間がかかる。

- (改善についての意見)
- 1年生の教室だからその位のことはがまんすべきだ。
 - すぐ掃除にかかれるように受持の先生に言って片付けておいてもらおう。
 - じゃ、わたしたちも片付ける手伝いをしようかしら。

(決定) 8. 休み時間のうちに1年生の教室へ行って、1年生に手伝って机の中の整理をすることにしよう。

(教師の措置) 9. 1年の担任へ学級会のようすを連絡し、手伝いの了解を得る。

(結果) 10. 毎日毎回の休み時間に1年生の教室へ出かける児童が多くなった。1年生が時々呼びにくることもおきてきた。記録から「よく出来なかった」がへった。

(今後の問題点) 11. このことが他の箇所にも波及してやる気分がおきてきたが、階段、音楽室ではまだ解決していない。1年生の教室当番へのうらやみもでているのでローテーションを早くして、それぞれが満足感を得るようにさせたい。

○ 考 察

清掃指導は学級指導の中に位置づけられた指導内容であり、その活動の大部分は学校管理、施設設備の保繕、学校環境、学習環境の美化といったような、いわば学校経営上教師側に必要な活動であるといえる。しかし、学校の規模や設備、校舎校庭の実情、清掃に対するその学校の取りくみなど、それぞれの学校の実情によってある程度その考え方が異なるのも事実である。

清掃指導の中で、児童が自発的、自治的に問題を解決していくという分野があるとすれば、それは、ごく限られたものの中の活動であり、望ましい学級会活動の内容とはほど遠いものになっていくであろう。

(3) 学級会活動と学校行事（遠足）の事前事後の指導

① 指導計画

- ねらいをおさえる。
- 目的地決定……実地踏査日を決める。
- しおり作成（活用の便を考える）
- 事前指導
- 実施日決定
- 事後指導

△ 指導計画作成上の留意点

- 目的地決定は、遠足のねらいを明確にし、ねらいを書く指導計画を作る。なお学年の縦の系列も考慮し、学校全体を見とおしての学年候補地を決定する。
- 地域の特性や、学校の実態に重きをおく。
- 指導のねらいや内容を明確にし、できるだけ具体的に記述する。
- 指導の過程がわかりやすく、活用しやすくする。
- 児童の発達段階に応じ、安全指導に気をつける。

② 実施計画

学校の年間計画にしたがって、学年で分担して計画を進める。

㊦ 事前の計画と指導

学 級 会 活 動	学 級 指 導
1. ねらいに合わせる。	1. 目標、目的地をはっきりしらせる。
① 資料蒐集……高学年	2. コース、日程明示
② 見学ポイント……各自の計画を話しあ う。（研究分担決定）	3. 交通機関の利用法
2. 車中を楽しくすごすためのくふう。	4. 経費、（小遣金など）
3. 昼休みを楽しくすごすためのくふう。	5. 持ち物、服装（記名、簡素、敏捷性） 学年、学級のきまり確認
○ あそび、グループのすごし方、昼食後 のしまつ。	6. 事故防止（発生の場合附添職員に連絡）
4. 「楽しいおもいで」とするために。	7. 集団行動のしかた
○ グループ作り、言動に留意。	8. 見学個所、休憩所、水飲場、便所、その 他危険個所の確認
	9. 腐敗変質のおそれなき携行食品

① 当日の指導

学 級 会 活 動	学 級 指 導
<ol style="list-style-type: none"> 1. 車中を（バス利用時は特に留意）楽しくすることをくふうする。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 行きはガイドや教師のリードによる。 ○ 帰りの児童司会による全員の協力。 ○ 他人に迷惑にならぬ言動 ○ 危険な行動をとらぬ ○ 酔う人の助けあい、席のゆずり合い等 2. 昼食後のすごし方のくふう。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 学級全体、グループ別で、危険なく楽しく過ごすくふうを話しあう。 3. 見学は計画に合わせて有効にする。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 雨天緊急の場合（欠席）の連絡法確認 2. 児童の人員や健康状態の確かめと指導 3. 団体行動の規律、交通機関の安全な利用 4. 休憩時、地域内のあそびと安全指導 5. 昼食後の衛生と後仕末の指導 6. 事故発生の場合の処理、直ちに付添職員に連絡させる。 7. 目的地に応じた指導と注意を確実にふまえる。 8. 不参加児……原則として登校、教師指導による学習

② 事後の指導

<ol style="list-style-type: none"> 1. ねらいが達成されたか、反省する。 （事前指導と関連して） 2. 強く感じたこと気づいたことの話し合い （善行のみとめあい）偶発事件など。 3. 記録のまとめ方について話しあう。 4. 発表や記録のかんしょう。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 児童反省に伴なった指導、次の学習への動機づけとする。 2. 次の遠足のあり方へ反省を活かす。 3. 児童の健康に留意し、適切は指導をする。 4. 記録のとりまとめをさせる。
--	--

テーマ……実践力を高めるための学級会活動

③ 実践事例……A校の場合……「楽しい遠足になるようにそうだんしよう。」

1. 指導のねらい……今までの遠足を反省し、自分たちでくふうをこらし、みんなで協力して楽しい遠足ができるようにする。
2. 評価の観点……実践の困難点や留意点を話しあい、実践と結びつけられるかどうか考え困難点が解決できるようになったか。
3. 実施計画が立案されるまで……遠足の日時決定、数日前に上記の議題で学級会を開くことが決まった。

4. 実施計画

ア. 提案理由……相模湖遠足を控えて、準備、当日のすごし方などを自分たちで考え、仕事を分担し、協力して楽しい遠足ができるようにする。

イ. 話しあい〇 議題確認

- 学級指導
- 〇 提案理由の説明と質疑
 - 〇 楽しくするための工夫（今までの遠足の反省と今回の目標と比較）
 - 〇 前日までの準備、当日の行動、集合、交通規則と歩行、電車の乗りおり、車中、登山、昼食、後しまつなど。
 - 〇 見学学習事項（ねらいを定めて達せられるようにする。）を分担で調べて発表する。 社会科……朝の国電、駅、車中、乗降の人、自然と人の力、ダムづくり、利用、人家と道など。
理科……植物、虫、作物など。

〇 決定したことの確認と反省。（実施後の学級会で発表会をする。）

ウ. 資料……遠足のしおり、相模湖電気科学館のしおり、ダム利用の図鑑、植物図鑑

エ. 評価……実践のみとおしにたってすじみちにそれないように話しあわれたか。

〇 計画委員や議長の話しあいの手順が具体的であったか。

〇 発言は理由をあげ、「いつ、どこで、だれが、何を」がおさえられたか。

④ 実践事例……B校の場合……こどもの国で みんなで楽しくすごす計画を立てよう。

1. 指導のねらい……5年生になると、高学年としての特性がだんだんはっきり形づくられて、知的な面の活動が目だってくる。この時期の特性から、中学年よりもっと、積極的な立場で、仲間の事を問題にし、その中で自分も生かそうとしてくる。この点をしっかりおさえて、学級会活動指導のねらいを次のように考えた。

- 〇 集団の意識を高め、より組織的な活動をさせていく。
- 〇 積極的に仲間との協力を問題にして、主体的に解決させる。
- 〇 学級集団の中で、自分を生かし、成長するようにする。

2. 形成しようとする能力……行事に対する構えを、実践と結びつけて、詳細に検討し、困難点や留意点を明らかにして、解決できるようにする。

3. 評価の観点……自分たちで、遊びや、グループ活動での計画ができたか。

- 〇 計画したことが、最後までやり通せたか。
- 〇 自分たちの学級グループの向上に関心が強くなったか。
- 〇 すすんで共同の仕事に参加するようになったか。

4. 実施計画が立案されるまで

ここに計画された遠足は、全校遠足と称し、全校生徒が、PTAのおかあさんたちと一緒に、同じ日に、同じ目的地（こどもの国）に行くものである。

5年として、学年プランを作成するのであるが、その際、現地の行動は、できるだけ、児童が主体的に活動ができるよう、グループ活動をするようすすめた。さっそく、プログラム委員会が開かれ、実施計画が立てられた。

5. 実施計画

<p>めあて</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 話しあいで、午前中の遊びを決め、1組と楽しくすごす計画を立てる。 ○ 午後の部で、グループで自由行動ができるよう、グループ組織を作り、グループ行動計画を作る。 	
提案理由	こどもの国では、場所も広いし、時間もあるので、みんなで遊んだり、探険したりしたい。
話し合いの順序	指導上の留意点
<ul style="list-style-type: none"> ○ 議題の確認 ○ 提案理由の説明と質疑 ○ 午前中のすごし方を考える。 ○ 午後のグループ行動のメンバー作りを考える。 ○ グループ作りとグループの計画表作りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 提案の趣旨と話し合いの順序や内容をはっきりさせる。 ○ 1組の事を考えながら、話し合うよう助言する。 ○ グループの中に、時計係りを必ずおくよう、話す。 ○ 地図を正しく読みとる指導を加え、危険な場所は前もって充分リーダーに教えておく。
資料	○ 子どもの国案内図、遠足のしおり、メモ用紙（グループメンバーを記入）
<h4>6. 学級指導</h4> <p>㊦ 事前の計画と指導</p>	

1. 目標、目的地をはっきり知らせる。
2. コース、日程明示
3. 交通機関の利用法
4. 参加者の確認
5. 経費
6. 持ち物、服装の確認
7. バスの座席決定
8. 集合時刻
9. 当日の天候の扱い
10. 前日の健康指導
11. 集団行動のしかた

④ 当日の指導

1. 参加児童の確認
2. 健康状態の確認
3. 励ましのことば
4. バスの車中での行動規制の確認
5. 事故発生の場合の処置 直ちに附添職員に連絡させる。
6. 集合地点、解散地点の説明
7. 集合時刻、帰校バス発車時刻の確認
8. 解散時の保健指導、明日の学習予定の説明

⑤ 事後の指導

学 級 会 活 動	学 級 指 導
<ul style="list-style-type: none"> ○ 午前中の1組との対抗試合の反省をする。 ○ 午後のグループ行動の反省をする。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 計画はどうだったか。 ○ 予定時間と実際時間とのくいちがいはなかったか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童の健康に留意し、適切な指導をする。 ○ 来年度の全校速足のあり方について話し合う。 ○ 当日、事故等で不参加になった児童の経費返かんをする。

⑥ 問題点

行事面での特別活動は ややもすると 学級指導になり、教師の指導事項のみに終りがちである。時間的にみれば この方が能率的ではあるが、効果的で意欲的な、そして 楽しい行事を行なうためには、短い時間でもよいから学級会活動の時間を持つべきである。ただ、A校の場合の実施計画を眺めると、当日の行動法、集合、交通規則と歩行、電車の乗りおりの問題まで学級会活動に持ち込んでいるが、この点考えなくてはいけないと思う。B校の場合のグループ行動では、危険な場所、の実地踏査やグループメンバーの構成も、あるグループによっては助言を加え、まとまったグループの構成に注意を向けないと事故を招くことになる。

⑦ 考 察

何を学級指導でおさえ、何を学級会活動にまかせるかを教師側でその基準をもって、常に全員の児童を楽しく、危険なく、速足に連れていくための最善策を考えなくてはいけない。

(4) 学級会活動と その他の学級指導

ア. 保健指導

学級会活動の活動例	学級指導の指導内容例	指導上の留意点
<ul style="list-style-type: none"> ○保健係を設置するかどうか相談しよう。 ○保健係の活動内容を考えよう。 <ul style="list-style-type: none"> ○係グループで考える ○学級全体で考える ○保健に関するポスターをつくり掲示する ○病気・けがの発生状況をグラフに書いて発表する ○清潔検査、手洗いの状況調査などの結果を工夫してまとめたり、発表したりする 	<ul style="list-style-type: none"> ○健康診断、体重測定、予防接種などの事前・事後指導 ○生活調査（例、朝食をとらない者の調査）、健康観察、清潔検査などを通しての指導 ○生活目標・保健目標などの具体化とその指導 ○保健・衛生に関する習慣形成のための具体的指導 ○学習時・休憩時・体育時・清掃時など時と場に応じた指導 ○初潮指導、肥満児指導等 特別な指導 ○季節の変化・長期休業に伴う指導 	<ul style="list-style-type: none"> ○保健・衛生に関する指導は、本来教師が計画的に行なうものである。指導の結果や、その一側面を児童が分担し実践することになる。清潔検査をやらせて学級指導は終わりだと考えたり、りっぱな学級会活動だと考えてはならない。

イ. 安全指導

学級会活動の活動例	学級指導の指導内容例	指導上の留意点
<ul style="list-style-type: none"> ○よい遊び、危険な遊びについて考えよう ○交通事故で入院（または自宅療養）している ○○君のお見まいをしよう ○教室の中での安全な遊びを考えよう 	<ul style="list-style-type: none"> ○日常生活に関する指導 <ul style="list-style-type: none"> ○学習時・休憩時・体育時・清掃時など時と場に応じた指導 ○遠足・運動会等 学校行事の事前事後指導 ○交通安全指導 ○避難訓練に関する指導 ○長期休業に関する事前・事後指導 	<ul style="list-style-type: none"> ○日常発生する問題の中で児童が発見して解決しようとする場合がある。それを学級会活動としたり、教師の行なう安全指導とすりかえてしまってはならない。

ウ. 学期はじめの指導

学級会活動の活動内容例	学級指導における指導内容例	指導上の留意点
<ul style="list-style-type: none"> ○組織をつくる。(つくりなおす) ○学級委員, 議長団, 代表児童委員の選出 ○係り活動の検討<活動の内容, 所属人選, 活動計画> ○運営の方法をきめる。 ○週間活動計画<提起→話し合>を作る。 ○記録の方法を検討<係・当番> ○コーナーの利用法を検討する<係り, 児童会, クラブ広報> ○学級集合活動<年・学期>計画 ○学習グループ共同の目あて決定 	<ul style="list-style-type: none"> ○在籍確認・座席決定 ○児童希望調査, 身体条件勘案 ○学期・学年の基本的な学習生活のめあてを決定する。 ○学級児童の実態調査 ○担任の方針を解説 ○学習の基本的な方法を指導 ○応答, ノート使用, 復習法等 ○諸当番の編成<日直・給食等> ○各当番の活動のしかた ○当番の割り当て ○学習班の編成 ○教室環境の設営を考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学級指導においても, 児童が内容を深く理解するために, ひとりひとりの考えを発表させて, それを参考にした上で, 指導を進めることが必要である。 ○学級会活動の滑り出しに支障のないように, 左欄の問題意識を広げる助言は必要である。

エ. 長期休業のための指導

学級会活動の活動内容例	学級指導における指導内容例	指導上の留意点
<ul style="list-style-type: none"> ○夏休みの「やくそく」を实际活動に生かすくふう ○遊びのきまりを守るために ○学習のきまりを守るために ○安全のきまりを守るために<反省カードを作るなど> ○新学期を迎えて, 研究発表会をもつための計画を立てる。 ○めあて, 日時, 発表内容, 発表時間, まとめの方法<読書感想・自由研究発表会等> ○招集日の集会を計画する。<球技会・絵日記展覧会等> ○夏季施設参加の計画 	<ul style="list-style-type: none"> ○休業期間中の保健, 安全指導 ○交通安全のための指導 ○遊びの中での安全指導 ○生活時程くふうの要点 ○健康保持のための鍛練の方法 ○休業期間中の諸行事予定の明示 ○諸施設の日程と参加の心得 ○招集日の計画 ○始業式の日時とその準備 ○家庭学習の方法指示 ○課題学習, 自由研究の計画 ○読書指導とTVの利用法 ○家庭生活での心得の指導 ○家事分担の仕方, だんらん 	<ul style="list-style-type: none"> ○保健, 安全指導については, 周到な資料を用意して, 必要性を理解させるように指導をくふうしたい。 ○休業中の生活を自ら高め楽しむために意欲づける必要がある。ので, 学級指導の発展として, 学級会活動の問題をもち上げるよう助言を与えることがたいせつ。

オ. テレビ視聴指導

学級会活動の活動内容例	学級指導における指導内容例	指導上の留意点
<ul style="list-style-type: none"> ○TV係りをきめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・人選<係りをつくるか, 当番制にするか> ・活動内容をきめる。<週間視聴予告板, 視聴記録, TVの用意始末の操作・調査・感想の整理など> ○「TVを見て」の感想発表会をもつ。 <ul style="list-style-type: none"> ・家庭で一斉に見る番組をきめる。<親子で, ひとりで> ・感想発表の方法を計画する。 ・意見のまとめ方を計画する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○TVを見るときに注意 <ul style="list-style-type: none"> ・正しい操作法 ・見る位置と距離 ・音量の調整と画面の調整 ○学習への役立て方 <ul style="list-style-type: none"> ・教育番組の紹介 ・教室での利用の計画 ・メモのとり方<整理のしかた> ○楽しむために見るTVの利用 <ul style="list-style-type: none"> ・番組を選んで見る<適, 不適> ・視聴時間<健康を考えた見方> ・TVニュースの価値 ・家族といっしょに楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習での利用は, 教科指導とじゅう分に関連づけて, 毎時間のじょうずな見方, 効果的な利用のしかたの指導によって習慣づけをしたい。 ○家庭での利用法については, 反省に立って自覚を高めるために, 実状をよく掴んでおき, それを使って指導するとよい。

カ. 業間体育指導

学級会活動の活動内容例	業間体育の計画	指導上の留意点
<ul style="list-style-type: none"> ○週間の学習計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> ・決定された日時, 内容についてどのように組み合わせて学習したらよいか。<何曜日のいつに何を学習するか> ・みんなでがんばるグループづくり<何人のグループが適当か, どんな組み合わせがよいか> ○「どれだけ伸びた」競技会 <ul style="list-style-type: none"> ・ねらいをきめる。 ・審査の方法をねらいに従ってきめる。会の持ち方の計画 ・会の反省とこれからの方向 	<ul style="list-style-type: none"> ○継続的な訓練のたいせつさ <ul style="list-style-type: none"> ・種目の決定<鉄棒, 巾跳び等> ・学習時間の決定<休憩, 昼休> ・学習方法の明示<安全指導も> ○実際指導 <ul style="list-style-type: none"> ・場に臨んで要点の指導 ・伸び率記録<正しい測定法> ・一定期間を置いて, 伸び率を公表し, 意欲を高める。 ・苦心談発表会<向上に資する> ○個々の特性に応じた努力の奨励 ○個々の特性に応じた努力の奨励 <ul style="list-style-type: none"> ・家庭での努力を発表させ, 個々の鍛練計画を考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○種目は年間を通すよりも, 能力の系統に従って, 学期ごとに変化をもたせるのがよい。 ○長い時間をとるよりも, タイムリーに回数を重ねて鍛練する方法をとった方がよい。 ○自分の体力を知り高めようとする努力にまで発展させることを狙って指導する。

キ. 日常の生活指導

学級会活動の活動例	学級指導の指導内容例	指導上の留意点
<ul style="list-style-type: none"> ○学級のきまりの設定・反省・改廃についての話し合いや実践 ○学校・学級のきまりを徹底させるための工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・掲示して知らせる工夫 ・実践状況の調査・報告活動 ○日常の学級生活を楽しく豊かなものにする活動 <ul style="list-style-type: none"> ・各係りの創意を生かした活動 ・遊びのグループ・内容・反省 ・学級の各種集会活動の計画や実践 ・自由に使える黒板・掲示板の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ○月の生活目標・週の生活目標の理解・実践・反省などの指導 ○学校・学級のきまりの徹底・反省などの指導 ○あいさつのしかたの指導 <ul style="list-style-type: none"> ・朝のあいさつ、帰りのあいさつ、授業の始まりと終わりのあいさつ、あいさつをする人や時・場所 ○ことばづかいの指導 <ul style="list-style-type: none"> ・相手、時、場所に応じた適切なことばづかい ・学習時の相手にわかる、すじみちをたてる話しかた ○学習用具・服装の整備、記名、保管についての指導 	<p>学級のきまりに関する内容は、その種類によってりっぱな児童の活動となりうる。</p> <p>児童の能力の限界を越えるものや、教育的配慮のないもの（例. 金銭を伴うもの）は、取り上げないよう指導助言する。</p> <p>広く学級経営的配慮を要求される分野である。</p>

ク. 学校・学級生活への適応指導

学級会活動の活動例	学級指導の指導内容例	指導上の留意点
<ul style="list-style-type: none"> ○どうぞよろしくの会を開いて、みんな仲よしくなろう ○グループ編成後の組織づくり <ul style="list-style-type: none"> ・班長、副班長の選出 ○グループの活動計画をたてよう ○新しく転入学してきた人を迎える会をひらこう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○入学当初の適応指導 <ul style="list-style-type: none"> ・座席の決定、学級・学校のきまり、校内めぐり、持ち物、服装などに関する指導 ○クラス編成替え時の指導 <ul style="list-style-type: none"> ・座席決定、グループづくり等に関する指導 ○新入生を迎える指導 ○児童の悩みに関する指導 	<p>○楽しくきまり正しい生活を送るための指導分野である。学年に応じ児童の創意工夫を尊重しながら指導されることが望まれる。</p>

ケ. 図書館利用指導

学級会活動の活動例	学級指導の指導内容例	指導上の留意点
<ul style="list-style-type: none"> ○学級文庫をつくろう。 ○学級文庫の利用のしかたを考えよう。 ○図書係からみんなへ、みんなから図書係へ ○図書部活動とそれへの協力活動 	<ul style="list-style-type: none"> ○資料(情報)検索法の指導 <ul style="list-style-type: none"> ○日本十進分類法の理解とその具体的指導 ○資料(情報)処理法の指導 <ul style="list-style-type: none"> ○事典、辞書等必要資料の発見活用・分類・整理の指導 ○読書法、読書のエチケット、感想文等の指導 	<ul style="list-style-type: none"> ○図書の分類については国語の指導(4年生中心)分野である。それへの事前指導や発展指導ととらえて、特質をおさえた指導をすべきである。

コ. 日直・当番活動の指導

学級会活動の活動例	学級指導の指導内容例	指導上の留意点
<ul style="list-style-type: none"> ○能率的な当番活動のしかたを工夫する。 ○グループ毎に相談して実践したり、全体で考える。 ○新しい活動内容はないか考えたり、分担の工夫をする。 ○活動内容の点検・評価のしかたを工夫する。 ○問題点の発見と、解決策の工夫をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○日直の指導 <ul style="list-style-type: none"> ○いつ、どんなことを、どのようにするか活動内容の指導 ○順番、人数を決め、日誌等記録のしかたを指導 ○清掃当番の指導 <ul style="list-style-type: none"> ○清掃の意義、方法、分担箇所グループ編成の指導 ○給食当番の指導 <ul style="list-style-type: none"> ○身じたく、運搬、配膳、後かたづけの指導 	<ul style="list-style-type: none"> 係り活動と当番活動の違いや特質をおさえて指導する。 ○係り活動 — 児童の自主的な活動 ○当番活動 — 活動内容に練りかえしが多く、一部の者が長期間行なうには負担が大きすぎる。

サ. 学級会活動として、児童の自主的な活動の余地がないもの

(7) 知能・性格等の諸検査・調査 — 学校の計画の一環として実施されるものであって、学級経営の立場から、事前の指導や事後指導が行なわれる。教師の意図的・計画的な指導であるから、児童の自主的な活動は全く考えられない。

これに類するものとして、友人関係調査や行動・実践についての相互評価を、教師の調査活動として行なう場合がある。ゲスフーテストやソシオメトリックテストがこれに属す

る。これらも、学級経営上の必要性から実施するものであるが、実際にはその結果が、グループ編成やその後のグループ活動に生かされるという一面を持っている。またゲストテストがオープンでグループでの話し合いや学級全体の反省といった形で持たれ、間接的に児童の活動を刺激したり全く児童の活動として行なわれる場合もある。

(イ) 突発的な問題についての指導 — 交通事故・伝染病・大けがなど突発的な事故が発生したような場合は全校対象の指導がなされる。また、学級としても発達段階に応じた適切な指導が望まれる。これらは、計画外の指導として、臨時に指導されるという特徴も持っているが、指導の結果が児童の活動に結びつく場合も多い。「けがや病気の人のお見まい」とか、安全な遊び、保健衛生に関する啓蒙活動がこれである。

シ. その他の学級指導は、主として朝の会や帰りの会など短時間に行なわれることが多い。

突発的な問題は教科の時間を振りかえて指導されることもある。週一単位時間しかない学級会の時間をこれに当てることは、学級会と学級指導との区別をわからせる意味からも望ましくない。また、朝の会や帰りの会全部が学級指導の時間に当てられるというのではなく、従来実施してきたように、学級会の議題を選定するための会等として週1～2回を児童の活動の時間として明確に位置づけておきたいものである。

3. あとがき

1. ここに納めた研究の成果

まえがきで述べたような経過をたどり、給食指導、清掃指導、行事（遠足）の事前・事後の指導、その他の学級指導をとりあげ研究を進めて来た。いずれも学級会活動と学級指導の接点分岐点に微妙なものがあり、領域的にはその題材を見ただけでは判別出来かねるものが多い。内容、特に実践活動の全体を通して、児童の自主性にまかせられるものと、指導計画の中で結論を教師が持つものによって、学級会活動であるかどうか判別出来るものであると言えよう。ここにあげたいいくつかの事例は、問題点を多く残しながら生々しい姿をそのままとりあげた形になった。このことは、移行措置期間である45年度への継続課題として持っていくつもりである。

2. 今後に残された問題

特別活動としての同じ領域の中で、学級を中心として指導され、児童も指導者も同じであり活動題材の取材も似かよっているといったような関係の中で、何を、どうすればいいのか、その内容、指導の方法、考え方を適確に究明されないと、現場での混同、混乱は必至である。理論的な体系だけでなく、実践の場でそのことを究明していかなければならないのである。

Ⅱ 児童会活動

テーマ「児童会活動と学校行事との関連をどのように図るか。」

1. 研究テーマについて	29
2. 改訂指導要領のめざすもの	30
3. 実践事例を通じた児童会活動と学校行事の種類・内容等の検討...	36
(1) 研究のねらい	36
(2) 実践事例を通して出された問題点	36
(3) 実践事例を通じた研究	36
ア. 朝会活動とその位置づけ	36
— 児童集会としての朝会の位置づけ —	
イ. 児童会活動の内容と実践事例	40
— 児童集会と児童会各種委員会活動との関連 —	
ウ. 集会活動を通じた学校行事と児童会との関連事例	43
エ. 学校行事への児童の参加事例	46
オ. 児童会活動と学校行事との関連の上で指導上留意すべきこと	49
4. 反省と今後の課題	50

○ 研究経過

- 4 4. 1 0. 7 (火) 部長・副部長選出, 研究テーマ設定
- 4 4. 1 0. 2 8 (火) 研究計画の検討, 研究の役割分担決定
- 4 4. 1 1. 1 0 (日) テーマについての検討, 確認
- 4 4. 1 1. 2 5 (火) 新指導要領のめざすもの, 現行指導要領, 新指導要領との相違点
について検討
- 4 4. 1 2. 9 (火) 学校行事への児童の参加事例その他実践事例の検討
- 4 4. 1 2. 1 9 (金) 児童会活動と学校行事との関連の上で指導上留意すべきことの検討
- 4 5. 1. 1 3 (火) 執筆者, 発表者等の分担決定
- 4 5. 2. 9 (月) 原こうのまとめ

研究・執筆者名簿

部 長	外 村 近 港	桜川小	仁保 義和	渋谷・臨川小
副部長	松野 彰夫	板橋・大谷口小	松本 勝士	板橋・上橋二小
"	北村 孝夫	世田谷・上北沢小	星野 隆治	練馬・豊溪小
	堀井 太郎	文京・金富小	東原 政二	北多摩・清瀬三小
	三浦 勲	品川・城南小	柴山 義市	太田・大森六小
	梶原ハツエ	目黒・中目黒小	小泉 美夫	世田谷・世田谷小
	北村 康富	江東・元加賀		

1. 研究テーマについて

大田区立大森第六小学校 柴山 義市

(1) はじめに

46年度より発足する改訂指導要領により、現行の特別教育活動と学校行事等は、一つの領域となり新しく特別活動として発足する。これは調和と統一、および基本事項の精選、一貫性等を基本理念とした改訂の基本方針によるものであり、現場の我々としてはこれを一つの進歩としてうけとっていきたい。

しかしながら、各教科・道徳などととも人間形成のうえから重要な教育活動として、特別教育活動と学校行事をひとくくりにし、基本的な目標は共通におさえておくというまとめ方は了解しえても、次のような問題点が考えられる。

それは 特別教育活動と学校行事との関係認識が一般には明確に確かめられていないということ、および、特別教育活動と学校行事が深い関連をもちつつ、それぞれの特徴をもたねばならないという点にある。特に特別教育活動は発足以来10年余を経過しているが、児童の自発的、自治的活動を重んずる他教科と異なった指導方法から その定着ぶりについてはすべてにじゅうぶんとはいえない現状である。

これらのことを考えたとき、ここで以上の諸点を明らかにすることが、改訂にともなう大切なことと考えられよう。以上のような考えからこのテーマを設定し、双方の関連について、具体的な指導を通し明らかにしようと試みたのである。

(2) テーマの解釈

次に、テーマについてその内容を明らかにし、これからの研究内容の範囲を明確にしておきたい。まず、特別教育活動と学校行事の関連を明らかにするために、研究の焦点をしぼる必要を感じ、下記のように研究の範囲を限定した。

ア 児童会について

この研究部会としては 児童会活動と学校行事との関連にしぼった。

イ 学校行事について

現行の領域わけによる 学校行事等の等に含まれる内容（給食指導 清掃指導等）についてははぶき、行事のみとした。

また、関連については、そのおさえ方、研究の進め方等についていろいろ考えられるが、一応 双方の共通点、相違点を明らかにすることをもって関連と考えた。現行指導要領と改訂指導要領のうえから双方の共通点、相違点を検討したり、双方の実践事例をもとにして、テーマにせまろうと考えている。

2. 改訂指導要領のめざすもの

品川区立城南小学校 三浦 勲

(1) 現行指導要領と改訂指導要領との相違

ア 現行指導要領の概観

- (ア) 特別教育活動の名称で「特別教育活動」と「学校行事等」がそれぞれ独立した領域
 - (イ) 教育課程の四領域の一つとして位置づけられる。(義務づけ、教育価値が明確)
 - (ウ) 名称が小中統一される。
 - (エ) 本質や目標が明確にされる。
 - 本質は自発的、自治的な活動を根本とする。
 - (オ) 活動の種類や内容が明確になる。
 - 活動内容(児童会活動、学級会活動、クラブ活動など)
 - 児童会活動(代表委員会、部の活動、児童集会)
 - 学級会活動(話し合い活動、係り活動、集会活動)
 - クラブ活動(クラブ活動)
 - (カ) 学級会活動に当てる時間の規定が設けられた。
 - (キ) 学級会活動以外の活動については時間配当がないが計画的に実施することが必要
 - 年間、学期、月または週ごとに適切な授業時数を配当するのが望ましい。
- 以上が現行指導要領の概観である。

イ 改訂指導要領の方向と重点

- (ア) 現行の特別教育活動ならびに学校行事等の内容を精選し、新たに「特別活動」を設け各教科および2領域となった。
- (イ) 内容を精選し、性格や目標を明確にした。
- (ウ) 現行の特別教育活動ならびに学校行事の2領域にふくまれている多種多様の教育活動を整理し、それぞれの特質を生かしながら相互の関連をはかり、弾力的に運用するような内容にした。
- (エ) 学級指導を新設した。
- (オ) 授業時数についてかなり明確になり、大きな前進をした。
- (カ) 部の活動が委員会活動に名称が変わった。
- (キ) 中学校の教育課程との一貫性を図る。

ウ — 改訂指導要領と現行指導要領との比較 —

改訂指導要領	現行指導要領
<p>(ア) 目標</p> <p>望ましい集団生活を通して、心身の調和的な発達を図るとともに、個性を伸長し、協力してよりよい生活を築こうとする実践的態度を育てる。</p>	<p>特別教育活動</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 児童の自発的自治的な活動を通して、自主的な生活態度を養い、社会性の育成を図る。 2. 所属する集団の運営に積極的に参加し、その向上発展に尽くすことができるようにする。 3. 実践活動を通して、個性の伸長を図り、心身ともに健康な生活ができるようにする。
<p>(イ) 内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童活動（児童会活動、学級会活動、クラブ活動） ○ 学校行事（儀式、学芸の行事、保健体育の行事、遠足の行事、安全指導的行事） ○ 学級指導（学校給食、保健指導、安全指導、学校図書館の利用の指導、その他学級を中心として指導する教育活動） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童会活動（児童会、児童の種々な委員会、児童集会） ○ 学級会活動（学級会、いろいろな委員会） ○ クラブ活動
<p>(ウ) 授業時数</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 年間240日の授業日数のうち、210日（35週）が教科、道徳などで残りを特別活動で使う。 ○ 内容に応じて、年間、学期、月、週ごとに適切な授業時数を配当する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学級会活動、学級活動に当てる時間は毎週一定の時間をあてることが望ましい。 ○ 他については時間配当なし、適切な授業時数を配当するのが望ましいというだけで、時間の規定はない。
<p>(エ) 児童活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 目標 	

児童の自発的、自治的な実践活動を通して健全な自主性と豊かな社会性を育成し、個性の伸長を図る。

このため

(1) 所属する集団の一員としての役割を自覚して、集団の運営に進んで参加し、その向上発展に尽くすことができるようにする。

(2) 集団のなかで自己を正しく生かすとともに、他の成員と協力して、楽しく豊かな生活を築くことができるようにする。

○ 内容

児童活動においては、児童会活動、学級会活動およびクラブ活動を行なうものとする。

(1) 児童会活動

児童会は、全校の児童をもって構成し、学校生活に関する諸問題を話し合い、解決し、さらに学校内の仕事を分担処理するための活動を行なうものとし、その運営は、主として高学年の児童が行なうものとする。

(2) 学級会活動

学級会は、学級ごとに、全員をもって組織し、学級生活に関する諸問題を話し合い、解決し、さらに学級内の仕事を分担処理するための活動を行なうものとする。

(3) クラブ活動

クラブは主として第4学年以上の

※ 特別教育活動の目標も大体もりこまれている。

※ 目標が明確、適切になった。

※ 改善の特徴は

○ 集団運営に積極的に参加し、向上発展に尽す。

○ 集団のなかで個を埋没せず、自己を正しく生かす。

○ 特別教育活動の内容とほとんど同じであるが、……クラブ活動などがはぶかれ、より精選された。

○ A 児童会は……

○ 語尾が……が行われる。

○ 現行も同内容である。

○ 主として、中学年以上の同好の児童

同好の児童をもって組織し、共通の興味、関心を追求する活動を行なうものとする。

- 内容の取り扱い、その他
- (1) 児童活動の指導に当たっては、教師の適切な指導のもとに……
- (2) 児童活動は児童の自発的、自治的な活動を基本とする。
- (3) 指導に当たっての留意事項

ア 児童会活動

- (ア) 児童会は、児童による実践的な
- (イ) 児童会に所属する代表委員会およびいくつかの委員会……。
- (ウ) 児童会活動には、毎週または毎月一定の時間を充てるのが望ましい。

イ 学級会活動

- (ア) 学級会は、学級のすべての児童
- (イ) 係りの種別や数は、児童の希望など考慮して決めること。
- (ウ) 毎週一単位時間を充てることが望ましい。

ウ クラブ活動

- (ア) 種別や数は、児童の希望など考慮して決めること。
- (イ) 各教科の補習にならないよう。
- (ウ) 毎週一単位時間を充てることが望ましい。

エ 学校行事

- (ア) 目 標
学校生活に秩序と変化を与え

○ 指導計画作成および指導上の留意事項

○ 児童の自主的な活動を基本として……

- (1) 児童会はいくまで児童による実践的な
- (2) 児童会に所属するいくつかの部……
- (3) 必要に応じては、学校、学年の全児童が集って児童会の集会を開くことあり。

……数は、児童の希望、学級の事情など考慮して

○ 毎週一定の時間を学級会にあてることが望ましい。

- (1)……数は、児童の希望、学校の実情、地域社会の特性……

- (2) どのクラブに参加するかは、児童の自発性……教師の適切な指導を……

○ 時間の規定なし

学校行事等

学校行事等は、各教科、道徳および特別教育

る教育活動によって、児童の心身の健全な発達を図り、あわせて学校生活の充実と発展に資する

イ 内容（No.2参照）

※行なうものとする。と明示

※安全指導的行事が明示された

ウ 内容の取扱い その他

(1) 目標の達成に有効な活動を精選し、実施の時期、時間、回数、方法など慎重に考慮

(2) 地域社会の要請と関連する学校行事は……じゅうぶん検討する。

(3) 国民の祝日などの儀式

(4) 各種類に次のような活動が考えられる。適宜の活動を取り上げて実施するもの。

(ア) 儀式

入学式、卒業式、始業式、終業式、国民の祝日における儀式、朝会その他

(イ) 学芸的行事

学芸会、展らん会、映画会、その他

(ウ) 保健体育的行事

運動会、健康診断 その他

(エ) 遠足的行事

遠足、修学旅行

(オ) 安全指導的行事

安全指導、避難訓練

活動のほか、これらとあいまって小学校教育の目標を達成するために、学校が計画し実施する教育活動とし、児童の心身の健全な発達を図り、あわせて学校生活の充実と発展に資する。

○ 適宜行なう

指導計画作成および指導上の留意点

1. 指導計画作成と実施にあたっては、他領域との関連を考慮するとともに、教育の見地から取り上げるべき種類、実施の時期……

2. 現行と同文

5. 現行と同文

3. 学校生活に変化を与え、児童の生活を楽しく豊かなもの……集団行動における児童の規律的態度を育てる。

4. 児童の負担過重にならないように健康安全に留意して……

6. 学校給食を実施する学校において……

○ 映画会は今までその他の活動にあった。

※ 健康診断は、学校、学年全体で行なう。

○ 現行は遠足

※ 歩く遠足、野外活動の含みがある。

※ 社会の要請がある。今後一層重視の必要有

○ 学校給食は学級指導へ

オ 学級指導

(ア) 目 標

学級における好ましい人間関係を育てるとともに、児童の心身の健康、安全の保持増進や健康な生活態度の育成を図る。

(イ) 内 容

学級指導においては 学校給食、安全指導、学校図書館の利用指導その他学級を単位として指導する教育活動を適宜行なうものとする。

※ 学校図書館の利用指導は今回がはじめて要領にてた。現行では学校行事の指導書に「学校図書館活動」がある。また国語のなかにある。

(ウ) 内容の取り扱い その他

- (1) 各教科、道徳ならびに特別活動の児童活動および学校行事における指導との関連をじゅうぶんに図るとともに、児童の個人差に応ずる指導を考慮する必要がある。
- (2) 学校給食においては、食事の正しいありかたを体得させるとともに、食事を通して好ましい人間関係を育成し、児童の心身の健全な発達に資するように配慮。

(エ) —— とくに、児童会活動と学校行事との関係について ——

児童会活動は、全校の児童をもって構成し、学校生活に関する諸問題を話し合い、解決し、さらに学校内の仕事を処理分担するための活動である。行事は学校が計画実施する教育活動である。すなわち児童会活動は学校行事とちがい計画実施の主体は児童である。そこで学校行事に児童の計画実施した児童会活動の経験をどのように取り入れるべきかが研究の課題である。またその計画、範囲など慎重にしなければならない。児童会活動と学校行事の両者の特質に応じ、児童の発達段階をじゅうぶんに考慮し、異なる学年の児童がともに活動する場合にも無理なく目標が達成されるように、またそれぞれの特質に応じて、相互の関連を図るように考慮しなければならない。学校行事は、学校が計画し実施するからといって、児童にすべて押しつけ、児童は教師の意のままに動くことなく児童会活動の自主性を育てるよい機会を与えるように配慮し、児童の学校生活を豊かにするように努力することが児童活動と学校行事の関係を生かしていく根本である。

3. 実践事例を通じた児童会活動と学校行事の種類、内容等の検討

(1) 研究のねらい

ややもすれば「各学校の独自性に任かす。」ということばのみにかくれ、偏見や独断の見られがちな今日、改訂指導要領の発足をまえに、児童の人間形成のうえから、重要な役割りを果たしてきた特別教育活動の実績を、実践事例をふまえながら学校行事との関連の中で総括を試み、それらの特質と関連をあきらかにする。

(2) 実践事例を通して、出された問題点

(ア) 児童集会としての朝会と、学校行事としての朝会との関連、相違を明確にする必要があること。

(イ) 児童会活動として行なうものの内容を明らかにすることと、その実践方法について。

(ウ) 集会活動の一例を通し、学校行事と児童会活動の関連、相違を探る必要性のあること。

(エ) 学校行事への児童の参加で、望ましい事例と望ましくない事例を分析してみることに。

(オ) 児童会と学校行事との関連の上で、指導上留意すべきことを、実践をふまえ提示すること。

(3) 実践事例を通じた研究

ア 朝会活動とその方法

— 児童集会としての朝会の位置づけ —

練馬区豊溪小学校 星野隆治

(ア) テーマのめざすもの

○ 現在、全国どこかの学校へ行っても、回数こそちがえ、朝会の教育的意義を認めて週何回か実施している。その内容から考察すると、学校長の訓話を中心とする儀式的要書の多いもの、児童が司会や進行をする特活的朝会もあれば、学校が管理的な立場に立って週番が司会し、週の目標の解説や注意事項を伝達する朝会もある。また、一方全校児童が体操したり、歌を合唱したりする朝会についても、方法を検討してみると学校行事として行なっているものと、児童の企画運営による児童集会として位置づけられるものとに二分することができる。

○ 現場では、さまざまな思惑の中で、これらが、混然としているケースが多いのではなかろうか。

○ 一方、改訂指導要領の中で、朝会を学校行事中の儀式として位置づけたことは、従来、特別教育活動として行なってきた児童朝会の場を、縮小させ、後退させる恐れのある今日、その両者の関連と相違を深く認識しながら、方法を思索、提示することはわれわれ

の使命と考えられる。

(イ) 朝会のねらいと活動内容

○ 月曜の全校朝会（行事）

- 集団としての基本的行動様式の訓練。
- 学校の管理運営のもとに、教師の話、生活目標の理解等々を通じて、集団内での生活の方法を高める。
- 集会部児童の司会により（日直の先生が補助）、学校長の話、生活指導、校外指導等の先生の話、週の生活目標の発表、解説を主とする。

○ 木曜の児童朝会（特活集会）

- 隣接学年が集まることにより、学年というわくにとらわれず、わたしたちの朝会という意識を育てていく。
- 楽しい集まりの中で、心と心とがふれ合い、ともに歌い笑い、話し合っ、おたがいを理解し、尊敬し合うことによって、人間関係を深めていく。
- 低学年（1～3年）と高学年（4～6年）が、校庭と体育館に分かれ、児童の生活に密着したもの、季節や行事に親しみをもたせるもの、おたがいの心の交流を図るものなどの内容を中心にし、児童の活動、発表を主とする。

(ウ) 木曜児童朝会の企画と運営

○ 集会委員

高 学 年 集 会	低 学 年 集 会
集会部児童（指導教諭）	各学年担任、各学年児童代表（輪番）
補助：放送、運動、校内安全部 etc	補助：集会、放送、校内安全部 etc

○ 週別集会計画

	第 一 週	第 二 週	第 三 週	第 四 週	第 五 週
集会 規模	全 校 集 会	低学年集会	低学年集会	低学年集会	低学年集会
		高学年集会	高学年集会	高学年集会	高学年集会
集会 内容	各部の連絡 体育集会	自 由	自 由	自 由	自 由

○ 企画と運営

- 集会委員の企画、運営とし、時間内（15分）に終了するよう考慮する。
- 集会委員は、当番月の前月末の学年会（低学年の場合）、部会（高学年の場合）で

1か月分の内容、方法等を計画立案する。

- その概要を、月末の職員朝会で発表。また校内ニュースを通じて、各方面に協力を求めるとともに、集会黒板に、その内容を記録、展示する。
 - 特別企画（例えば、方法、内容の根本的な変更、時間延長等）の場合は、集会委員が、代表委員会に提案、決議されてから実施するものとする。
 - 当日の朝、始業5分前に、集会委員代表1名（低、高とも）は、放送部の協力を得て、集会場所、その他諸注意と合わせ、全校に流す。
 - 前日準備の必要ある場合は、集会委員を中心に、これにあたる。また、後かたづけについても、これに準ずる。
 - 内容に応じた集合隊形等にもくふうをこらす。
- 集会場所と学年輪番の割当て

	月	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月
低	集会委員 (場所)	3年生 (校庭)	2年生 (体育館)	1年生 (校庭)	3年生 (体育館)	2年生 (校庭)	1年生 (体育館)	3年生 (校庭)	2年生 (体育館)
高	集会委員 (場所)	集会部 (体育館)	集会部 (校庭)	集会部 (体育館)	集会部 (校庭)	集会部 (体育館)	集会部 (校庭)	集会部 (体育館)	集会部 (校庭)

(二) 予想される内容例

低学年児童朝会		高学年児童朝会	
種別	内容例	種別	内容例
○みんなて 歌おう	合唱、斉唱、輪唱、合奏 学 年学級単位の舞台使用可	○みんなて 歌おう	左記に同じ
○みんな集 まれ	誕生日別、同姓同志、同地区 別などの集合、話し合い。	○みんな集 まれ	左記に同じ
○リズム遊 び	たのしいね、足ジャンケン、 大きなタイコ	○楽しくお どろろ	フォークダンス、民よう ジェンカ etc
○楽しい行 事	速足、子どもの日 たなばた、母の日 運動会、お正月等	○楽しい行 事	左記に同じ
○クイズ遊 び	電報クイズ、なぞなぞ、しり とり、私はだれでしょう。	○クイズ遊 び	左記に同じ

○学級紹介	級友、先生の横顔、努力していること、はやっている遊び	○学級紹介	左記に同じ、学級自まん学級歌の発表
○部、クラブ発表	日常活動の調査統計発表、クラブ研究、練習方法の紹介、仕事の内容解説	○部、クラブ発表	左記に同じ、新役員紹介
○選手を励ます会	水泳、陸上各種記録会の内容と選手紹介、激励	○選手を励ます会	左記に同じ
○先生のお話	幼い頃の思い出、近ごろ思ったこと、物語の中から	○先生のお話	左記に同じ
○みんなのねがい	学校へ、先生へ、上級生へ、両親へ、友だちへ	○話し合おう	児童会へ、学校へ、先生へ、卒業生おめでとう。
○体育集会	体操、行進、かけ足、つな引き	○体育集会	左記に同じ
○ゲーム遊び	ジャンケンおにの王さま、おしくらまんじゅう	○ゲーム遊び	左記に同じ、マスゲーム

(4) 考 察

- 43年度までの本校の朝会活動実践の中で出された問題点は、つぎのようなものであった。
 - 月曜朝会と木曜朝会とのねらいのちがいが、はっきりしていなかった。
 - 従って、その方法、内容についても、その時々的情勢や指導者、企画者の判断によって、多様な解釈、形態が現われていた。
 - 集会部児童を中心とする活動にも、見通しの不足や、限界があり、行きづまりを感じている。
- 以上のような反省の上になつて、本校特活研究部がとりくんだものが、上述のような実践方法である。この間、全職員での意見交換は勿論のことであるが、これまでの活動の主体者である児童の声、とりわけ、集会部児童、および代表委員会での討議の中から生まれた部分の多かったことを付記しておきたい。
- 44年度2学期末までの実践の過程で考察を試みると、
 - 学校行事に位置づけられた月曜朝会と、特活教育活動に位置づけられた児童朝会との相違と関連が理解され、全職員、全児童に、その活動が浸透してきた。

- どちらが主体となる朝会であるかが明確となり、児童の活動が生き生きとしてきた。
- 反面、内容の充実という、集会委員のうちからなる意欲と、負担過重という現実の問題に、時々遭遇したことも事実で、集会内容方法等の普遍化を図るとともに、月間予定を発展させ、学期または年間予定の大綱を作成することが、今後の課題と言えよう。

イ 児童会活動の内容と実践事例

— 児童集会と児童会各種委員会活動との関連 —

世田谷区上北沢小学校 北村孝夫

(ア) 児童会活動として行なう集会の条件

- 児童の自発的、自治的な活動として行なわれるものであって、学校行事として行なわれる集会とは、計画および運営において異なるものである。
- 実施計画の作成においては、児童の要求、興味、関心などが、可能なかぎりとり入れられねばならないが、そこには、当然、教師の適切な指導助言が必要である。
- 年間時数の配分よりして、代表委員会の議決による全校児童集会などは、学期に1～2回程度にとどめる必要があること。(集会委員などを中心とする児童朝会のような定期的な集会は除く)

(イ) 児童会活動として行なうのが望ましい集会例(全校児童集会)

上記のような条件を考慮しながら、拾い出してみると、次のような内容などが考えられる。

(定例の児童朝会であつかう内容例は前述)

- 一年生を迎える会をしよう。
 - 校内球技大会をしよう。
 - 六年生を送る会をしよう。
 - 学級紹介をしよう。
 - 児童会活動について話し合おう。
 - クラブ発表会をしよう。
- (児童総会、児童協議会など)

(ウ) 「学級のしょうかいをしよう」をめぐって

- 集会部の活動から
 - 体操や合唱など いつも同じではつまらないから、みんなが互いに知り合う集会があったらよい。という意見が出された。
 - 部員がいろいろ話し合つて、各学級のようにすを紹介する計画をたてることになった。
- (1) 第2金曜日の朝の児童集会15分間の中で行なう。
 - (2) 各学年から1学級を選ぶ。
 - (3) 紹介することがらは、その学級でくふうしてもらう。

- ・ 以上3つのおおまかな計画をたてたが、どの学級を選ぶとか、学校全体の連絡や、当日の進行など困った問題が出てきたので、代表委員会に議題としてとりあげてもらおうことにした。

○ 代表委員会で

- 議題「児童集会でしようかいする学級を決めて、その計画をたてよう。」

○ 決定事項

- ・ 紹介する学級は、第1回6年1組、第2回5年4組、第3回4年生、以下3年、2年、1年といくが詳細は、次の会で決める。
- ・ 3, 2, 1年は、代表委員がいないので、担任の先生によく伝え、学級で話し合ってもらおう。
- ・ 紹介する学級の代表委員は、集会計画を集会部に連絡、希望をとり入れてもらう。(1週間前)

- ・ 各部の活動で仕事を分担し合う。

① 紹介が決まった学級へ了解を求めに行く。(議長, 集会部長)

② 紹介することがらや内容を決める。(6年1組学級)

③ 当日の集会の全体計画と進行(集会部)

④ 朝昼の放送で全校に知らせる。集会のときの放送関係のお世話。(放送部)

⑤ 学校新聞に6年1組のようすを紹介する。集会のとき……感想、ようすなどを取材し記事にする。(広報部)

⑥ 6年1組の人たちから、各部への要望を聞く。(各部の部長)

⑦ 歌の伴奏と音楽効果(音楽クラブ, 放送部)

○ 集会部の活動 — 代表委員会の決定事項を受けて —

○ 指導上のねらい

- ・ 児童会の組織を生かし、学級紹介の企画運営をし、みんなで楽しい集会ができるようくふうさせる。

○ 活動の流れ

- ・ 部長が代表委員会の経過報告。学級紹介の6年1組代表委員から、集会計画の希望を聞いたり、質問したりする。
- ・ 部員32名は、4つの班に分かれて活動しているが、今回は、2班が中心となっ
て行なうことになった。
- ・ 当日の全体計画を部員全員で話し合っ
て決める。

• 集会計画

① 集会次第

- 開会のことば (集会部長)
- 校長先生のお話
- 学級しょうかい
- 次回の予定
- 閉会のことば (集会副部長)

② 係分担

- 司会進行係 (2名)
- レコード係 (1名)
- 会場準備, 連絡係 (3名)
- 低学年おせわ係 (2名)

③ 学級紹介プログラム (6年1組学級会)

- 教室の場所と人数
- 担任の先生の横顔
- 努力していること
- はやっている遊び
- 学級で楽しいことや問題になっていること
- 6年1組から, 各部へ希望すること
- みんなでつくった学級歌の発表
- 集会の感想
 - ・ はじめての学級紹介だったので, みんなとても真剣に聞いていた。
 - ・ はやっている遊びで, しりとり合戦が, とてもよくふうされているので, おもしろいと評判になった。
 - ・ 先生の横顔の紹介がおもしろく, 先生の顔がまっ赤になったので, みんな大笑いをした。
- 指導者の反省
 - お互いに学級の様子を交流し合うことは, 知りたいという興味と関心がてつだって, みんなで楽しい集会に盛り上げていった。
 - 計画した集会部員たちも, とてもよかったという満足感がわいて, 次への活動の励みになった。

(エ) 考 察

- 本事例は, 朝の児童集会のマンネリを, その運営の中心である集会部自身が気づき, 克服しようと試みているところに, 特活本来の出発点がある。現状に甘んじることなく, 児童の, 自分たちの集会を向上発展させようとする意図のもとに, 自発的, 自治的に, その輪を学校集団の中に広げていった。
- 児童会活動で, 常にわすれてはならぬことは, 連帯感, 満足感, 向上心を, 実践活動の場面, 場面で醸しだしていくことではなかろうか。

その意味で、本議案を代表委員会にかけ、話し合ったことは、全校集団の意識を盛りあげ、新しい集会方法を、児童会みんなの力で作りあげたという共通の喜びを広く味わう結果になったものと思う。

- 自主的活動の活発化は、集団成員の友好的な結びつきに依存することが大きい。この種の集会活動は、その意味からも、今後の学校集団によい影響を与えるものと期待している。

ウ 集会活動を通した学校行事と児童会との関連事例

練馬区豊溪小学校 星野隆治

(ア) はじめに

- 児童会活動として行なうことが望ましい集会内容であっても、その計画および運営が、学校側よりの発想より出発すると、学校行事的な色彩が強くなってしまふ。いわゆる。児童の自発的、自治的な活動をたてまえとする児童会活動のねらいが疎外されているケースである。
- 次に挙げる事例は、その両者の関連を年度を追って比較対照させたものであるが、当日の集会参加に対する児童の意欲や喜びには大差がないとしても、会を成功させようとする個々の児童の質的な高まりのちがいに着目していただきたい。

(イ) 「六年生を送る会」について、過去2年間の比較

(4 2 年 度)

- 基本的な考え方
 - 本来児童会活動として行なうべきものであるが、全校児童を動かし、しかも、学校教育の中でも重要な意味を持つこの種の集会は、ある程度、学校側でイニシアチブをとったほうがそつなくできるのではないか、という考え方。
- 原案作成
 - 5年児童代表と5年担任が中心。
- 議決方法
 - 職員会→代表委員会

(4 3 年 度)

- 基本的な考え方
 - たとえ、体裁はまずくならうとも、本来のすがたにもどし、児童の自発、自治による活動に期待すべきだという考え方。
 - これは、本部役員を中心とする計画委員会の自主的な発足、代表委員会への提案という動機が、学校側の考えを変えていった。
- 原案作成
 - 計画委員会（全体の企画運営も含む）
- 議決方法
 - 代表委員会→職員会

○ 名 称

- 「六年生を送る会」(全校集会)
- 「送別球技大会」(5, 6年児童)

○ 実施方法

- 「六年生を送る会」
 - ・ 木曜朝会時を利用, 時間を30分延長, 正味45分間とする。
 - ・ 集会プロ
 1. 開会のことば 5年代表
 2. 校長先生のことば
 3. レイ贈呈式
1年生より6年生へ
 4. 全校つなぎき
6年生対1~4年生
 5. 全校合奏
(思い出のうた, 校歌)
 6. お礼のことば 6年代表
 7. 六年生退場
 8. 閉会のことば 5年代表

○ 「送別球技大会」

・ 内容次第

1. 開会のことば 児童会会長
2. 校長先生のお話
3. 試合上の注意 体育部の先生
4. ボートボール試合 5女対6女
5. サッカー試合 5男対6男
6. お礼のことば 6年代表

○ 名 称

- 「さよならパーティー」(全校学級集会)
- 「さよなら球技大会」(5, 6年児童)

○ 実施方法

- 「さよならパーティー」
 - ・ 4校時より給食終了時まで。
(給食を4校時にくり上げ)
 - ・ 代表委員会で決まったこと。
 1. 学級単位で趣好をこらし, 六年生を招待する形式
 2. 給食を共にしながら, 歓談, 余興をする。
 3. 方法の細目について, 学年別児童委員会を開き, 学年調整を図る。
 4. 会のために, お金をかけるようなプレゼント, プロのくみ方は絶対やらないこと。
 5. 当日のプロおよび, それまでの進め方は学級会で話し合い, また, 卒業生にも楽しく参加してもらおうよう考えること。
 6. 六年生の学級別配当は, 六年学年児童委員会で決める。

○ 「さよなら球技大会」

・ 内容次第

1. 開会のことば 児童会会長
2. はげましのことば 校長先生
3. 試合上の注意 審判係
4. ドッチボール試合 5女対6女
5. サッカー試合 5男対6男

7. 閉会のことば

- 試合方法 略
- 組み合わせ 略
- 準備と係

司会進行係	5年代表,5年先生
放送計時合図	放送部
記録会場用具	運動部
審判	体育部の先生

6男サッカークラブ対先生男

6. 勝敗発表 審判係
7. お礼のことば 児童会前会長
- 試合方法 略
 - 組み合わせ 略
 - 準備と係

司会進行係	計画委員会
放送計時合図	放送部
記録会場係	集会部
用具,準備係	運動部
審判係(運動部,サッカークラブ)	

(ウ) 考 察

- 「六年生を送る会」について紙面の都合上、その変容の経緯は省略し、結果のみを比較対照したものであるが、テーマのねらいとするところは、おおよそ達せられたものと思う。
- 「六年生を送る会」にとりくむ主体者（児童）自身の自覚は、われわれ教師の危惧を立派にはねのけて、会の成功へと全校の力を結集していった。
- 名称を、子どもたち自身の発想の中から生まれたことばに変えることより始まって、実践方法についても、全校集会から全校学級集会にかえたことは、会が、その場かぎりのものにとどまることなく、卒業生と在校生との間に、より持続的、より人間的な心の交流のあったことは大きな成功であった。
- 児童会活動として行なうことが望ましいもの、または児童にまかされるものは、おもいきって、これにゆだねるという積極的な学校側の姿勢が、一層要求されるのではなからうか。

今日、学校行事とよばれるところの教育活動のなかには、古くから慣行としてとり入れられているものがある。入学や卒業に関する諸行事のように、学校の運営にとって必要とされるものもあるし、単調な学校生活に変化を与えたり、言語や文字を通して行なわれる平板な学校教育の内容を多彩にし、興味あるものにしようとする意図によって、実施されてきたものもある。さらに、学校外の社会において行なわれる行事で、学校においても実施されるようになったものもみられる。このように、学校教育の発展の歴史において、学校行事的な教育活動は、長い伝統を持っているものが多いのである。

今回の改訂指導要領では、これらの教育活動の種類や形態を、人間教育にとってよりいっそう価値あるものに高めることをねらっている。

(ア) 目標

学校生活に秩序と変化を与える教育活動によって、児童の心身の健全な発達を図り、あわせて学校生活の充実と発展に資する。

このため

- 行事に積極的に参加させ、日常の学習成果の総合的な発展を図るとともに、学校生活を明るく豊かなものとする。
- 集団への所属感を深めさせるとともに、集団行動における望ましい態度を育てる。

(イ) 内容

- 学校行事においては、その目標の達成に有効な活動を精選し、実施の時期、時間、回数方法などについて慎重に考慮しなければならない。
- 地域社会の要請と関連する学校行事については、学校全体の教育計画の観点から、その教育的価値について、じゅうぶん検討するよう特に留意する必要がある。
- 国民の祝日などにおいて儀式を行なう場合には、児童に対してこれらの祝日などの意義を理解させるとともに、国旗を掲揚し、「君が代」を斉唱させることがのぞましい。
- 学校行事の各種類には、次のような活動が考えられるが、各種類ごとに、適宜の活動を取りあげて実施するものとする。
 - 儀式 入学式・卒業式・始業式・終業式・国民の祝日における儀式・朝会他
 - 学芸的行事 学芸会・展覧会・映画会そのほか
 - 遠足的行事 遠足・修学旅行そのほか
 - 安全指導的行事 安全指導・避難訓練

現在、学校行事がどのようなかたちで実施されているかをB区で調べてみた。小学校における実態はつぎのとおりである。

(○印は 学校の指導計画にもとづいて実施し、児童は補助として活動する。)

行 事		校 名	r	m	n	K	h	V	S	Y	u	m _s	K _n	計
儀 式	入 学 式					○	○	○		○		○	○	6
	始 業 式		○	○				○	○	○		○	○	8
	終 業 式			○		○	○	○	○			○	○	7
	卒 業 式			○		○	○	○	○			○	○	7
	朝 会													0
学 芸 的 行 事	学 芸 会					○		○						2
	展 覧 会							○						1
	音 楽 会		○	○				○						3
保 健 体 育 的 行 事	小 運 動 会						○	○					○	3
	運 動 会		○	○		○		○						4
	健 康 診 断					○	○	○				○	○	5
	水 泳 記 録 会			○			○	○					○	4
遠 足 的 行 事	臨 海 学 校					○						○		2
	林 間 学 校					○						○		2
	遠 足			○		○	○	○						4
安 全 指 導 的	交 通 安 全 教 室			○				○				○	○	4
	避 難 訓 練			○		○	○	○				○	○	6
	大 そ う じ					○		○				○	○	4

この表に見られるように、儀式はいちようにどの学校でも指導計画にもとづいて、だいたい実施されている。だが、改訂指導要領に示された朝会の運営は、移行期間のうちに、じゅうぶんな検討が必要である。そのために、指導計画によって実施されている学校は、調査の範囲では見当らなかった。特活の領域で主体的に行なってきた学校が多いだけに、朝会の運営・性格をどのようにしていかなければならないかについて、共通な理解を深める必要がある。

遠足の行事の中に、夏季休業中に行なわれる臨海・林間を入れてあるのは今後吟味を要すると思う。改訂指導要領には遠足・修学旅行となっている。夏季休業中の臨海・林間は、修学旅行と解釈しているのは問題が残るであろう。

安全指導の中の大そうじも、健康安全のに包含する考え方で組み入れたようであるが、その指導の主体性を考えると、学級指導の領域になるようにも思う。この調査を行なう段階で共通理解がたいせつである。

以上、考察を加えて分析してみたが、各校の諸条件を勘案して、こどもの実態に即した行事の精選を図ることを期待したい。

つぎに、学芸的行事の中の展覧会について紹介しよう。これはK校で実施したものである。

(7) 前日までの活動

- 展覧会委員会（教師各学年専科から1名ずつ）で原案作成
本年のテーマは共同作品で各クラス1～4枚の範囲で完成する。1枚の大きさはたてが1.8 m、横2.4 mのベニヤ板で、裏にはタルキで補強する。
- テーマ（画題）は各学年、各クラスに任せる。（こどもたちの主体性を重視する）
- 解説文を展示する。（こどもたちの発想のものをこどもたちの力で表現する）
- 会場は各教室とする。
- 賞は出さない。
- 鑑賞指導は各担任が行なう。配色の関係、苦心したと思われるところなど、鑑賞の態度を事前に指導しておく。（この場合、こどもたちの発想もたいせつにしたい）
- 作品は描画を主とする。クラブ活動における作品（手芸・科学・理科・など）を一会場設けて展示する。
- PTA作品を一会場にあてる。

(8) 当日の活動

- 低学年は8時半登校、鑑賞する。中学年は9時半、高学年は10時半とする。
- 6年生若干名は各会場の係として、午前中は各展示場の監視を行なう。

(9) 事後の活動

- 各学級で、あるいはグループで、展示場の配置、作品などについて、どんなところに感心したか、強く印象づけられたのは何かなどを話しあい、作文に書く。
- 次回の参考にしておくために代表委、学年委で話しあった記録を保存しておく。

オ. 児童会活動と学校行事との関連の上で指導上留意すべきこと

(ア) 児童会活動と学校行事との関連

児童会活動と学校行事は、ともに集団的実践活動として特質をもつが、それぞれが独自の目標と内容をもった教育活動である。したがって、計画実施にあたっては、それぞれの特質をじゅうぶんに生かすよう配慮することが必要である。

児童会活動は、児童の自発的・自治的な実践活動ではあるが、教師の適切な指導助言が必要であるし、学校行事はその計画や実施については、学校や教師がきめるものであっても、児童の発意や自主的な活動をできるだけ受け入れていくことが必要である。そこには一応の区別があっても、実際には相互に関連、交流する面があり、この点をじゅうぶんに配慮して計画をたてなければならない。

(イ) 指導上の留意事項（主として学校行事の立場から）

学校行事に児童を積極的に参加させるには、児童が主体的にその行事を受けとめ、喜びと張りあいをもたせるようにすることである。

- 全校教師が他の教育活動にはない教育的価値をよく認識して、熱意をもって指導に当たるようにする。（学級会、学級指導との関連）
- どの行事も、児童を主体に考え、ひとりひとりの児童に参加の満足感を与えるようにすべきである。
- 計画の中に児童の主体的参加の場をできるだけ多く組みこみ、児童会活動の組織を生かして活動させるように配慮する。学校行事の中でも、できる限り、児童の自発的・自治的な活動に委せる部面を多くする。

このような配慮により、成功感や満足感を味わわせ、集団への所属感・連帯感を深める。

4. 反省と今後の課題

本年度の研究は、児童会活動と学校行事との関連がテーマであったが、結果的には、研究内容にもられているように、基本的な実践的研究になったようである。

すなわち、現行指導要領と改訂指導要領との比較で始まり、児童会活動と学校行事との関連の実践的研究が中心となった。

この研究でわかったことは、各学校で実施している児童会活動や学校行事等との実践が、本質的な面がじゅうぶんに追求されないままに実施されているということである。しかも、それらをはっきりしようとすれば、練馬の事例のように、時間をかけてたゆまず改善していくことが、各活動内容の本質にせまりながら、関連を深くし、充実していくことになるように思われる。また、すでにそれらの本質をふまえて計画し、実施している学校では、マンネリ化を克服することが一つの課題のようである。その点では、世田谷の事例はひとつの示唆といえよう。

研究物としては、未熟なものであっても、改訂指導要領にそった指導計画作成に、ひとつの方向と問題点を明確にして、その解決策や改善の方法等をいくらか示すことができたように思う。しかし、児童会活動や学校行事等のマンネリ化を防ぐ指導計画や指導についてはそのちよつとした感じで、今後さらに、多くの事例を中心に、研究と検討を積み重ねなければならない。とくに指導計画面での関連のもたせ方、実践過程における教師の指導助言の範囲や限界など児童活動と学校行事との相互関連を整理統合し、深化する必要がある。

Ⅲ クラブ活動

テーマ 「クラブ活動における4年参加を
どのように実施したらよいか。」

○ はじめに	53
I. 調査の結果とそれにもとづく問題点	54
II. 児童の参加意識とクラブ活動で育てられる能力	57
III. 組織, 運営のくふう	63
1. 運動場の利用をくふうした例	63
2. 新しいクラブの開発	64
3. クラブの統合の例	66
4. クラブ参加以前の指導	67
IV. 研究の反省	72

○ 研究経過

- 4 4. 1 0 組織づくりと研究テーマの検討
- 4 4. 1 0 2 7 研究テーマのほりさげと研究のすすめ方
調査実施について
- 4 4. 1 1. 2 5 三年生のクラブ参加意識とクラブ活動で育てられる能力について、
調査結果の処理
- 4 4. 1 2. 8 四年参加の場合の組織・運営について事例をもちよる
- 4 5. 1. 1 2 四年参加をめざしての組織・運営のくふうと研究のまとめについて
- 4 5. 1. 2 7 研究のまとめ

研究・執筆者名簿

部 長	岩園 敏明	新 宿・四谷第六小	石井 克子	杉 並・荻 窪 小
副部長	小野 真澄	港 ・ 神 明 小	芳賀 敬	豊 島・要 町 小
"	佐藤 発	三 鷹・三鷹第三小	池田 茂	北 ・ 滝野川第七小
会 計	土江 富子	新 宿・江戸川小	仲岡 久王	荒 川・第四日暮里小
(発表者)	藤田 学	港 ・ 白 金 小	金子てる子	"
	桜井 博	板 橋・板橋第十小	桜井 博	板 橋・板橋第十小
	山田 亮子	北多摩・狛江第五小	伊藤 敦夫	葛 飾・半 田 小
(発表者)	池田 和栄	文 京・千駄木小	大場 宗一	江戸川・鎌 田 小
(発表者)	小竹 章	目 黒・碑 小	野村 寿夫	青梅市・青梅第七小
(発表者)	大谷 徹夫	渋 谷・猿 楽 小	松井千枝子	町田市・鶴川第一小
	水上 洋	小 平・小平三小	荻尾 佳子	町田市・町田第五小
	檜山清之助	文 京・金 富 小	水上 洋	小平市・小平第三小
	高橋 之子	台 東・精 華 小	古谷 孝太	国分寺市・国分寺第八小
	飯干 孝原	墨 田・第三寺島小	小川 修	西多摩・増 戸 小
	森野 彬	江 東・第四大島小	今西 恵三	北多摩・芝 山 小
	井上 茂利	大 田・女 塚 小	山田 亮子	北多摩・狛江第五小
	鈴木 一敬	杉 並・杉並第一小		

○ はじめに

本研究会では、第1回幹事会において、本年度研究の大テーマとして、「新指導要領実施上の具体的方策」を設定した。

クラブ活動研究部では、これをうけて、新指導要領の目標、内容についての改善点を確認し、実施上の具体的な問題として表記テーマをとりあげることにした。

調査によれば、クラブ活動への四年参加については、すでに実施している学校が何校かあるが、特に研究的に実施している学校以外は、ほとんどが小規模学校である。また、その参加のし方も学校の実状によって種々様々である。

しかし、昭和46年度からは、可能な範囲で、ほとんどの学校が実施することになるとすれば、そのための対策は、規模の大小を問わず、学校として緊急に解決しなければならない問題であろう。

以上のような実施上の具体策と同時に、これを機として、今までの実施を反省し、きめの細かい、本ものの活動を探りたいと考えた。そこで、研究の柱として次にあげる3点をたて、研究をすすめてきた。

1. 柱の第一は、都内各学校の調査をもとにした問題点のさぐり出しである。

調査にあたっては、全都的な傾向をつかみたかったのであるが、諸種の制約もあって、実質的には9区154校の調査に止まらざるを得なかった。しかし、都内の一応の傾向はつかみ得たと考えている。この調査によって、問題点を大きく次の3つにしぼることができた。

(1) 学校規模についての物理的条件（児童数、施設、設備等）

(2) 児童の興味、関心と能力差

(3) 教師の指導力（指導意識、指導技術等）

2. 柱の第二は、上記問題点をうけて、児童の参加意識とクラブ活動で育てられる能力とは何かということのほりさげである。

調査の中にもあらわれていたが、従来のクラブ活動ではとかく技能面に重点がおかれがちであったことを反省し、「集団の」、「実践活動」、そして「自主的、自発的活動」という児童活動の性格をふまえて、クラブ活動を特色づけなければならないことを確識した。

3. 柱の第三は、具体的な組織、運営のくふうである。

ここでは、児童が、「クラブ活動に参加した。」という意味づけをもつような、実践的な具体例の紹介をすることによって、各学校のご参考に供したいと意図したわけである。例えば、新しいクラブの開発。活動内容のくふう。児童の興味、関心の開発。施設々備の利用等をあげ、大規模学校の実際運営にも役立つよう努力したつもりである。

I. 調査の結果とそれにもとづく問題点

4年生参加について各区(市)の特活研究部、また、各学級で検討がすすめられている現在、都特活クラブ活動研究部では10区(市)192校のアンケートを資料に、問題点をあきらかにし、この問題に対する都の傾向をさぐってみた。

1. 現在の参加状況(192校調べ)

	学校規模	校数
4年生 から 参加	2クラス平均	16校
	3クラス平均	6校
	4クラス平均	0校
5年生 から 参加	2クラス平均	38校
	3クラス平均	87校
	4クラス平均	68校
6年生 から 参加	2クラス平均	1校
	3クラス平均	1校
	4クラス平均	2校

(5学級以上も4学級に含む)

2. 4年生参加についての見こみ

学年3クラス平均までの学校では、4年生参加を考えている学校が多くあるが、4クラス以上の学校では積極的なかまえをみせている数がすくない。それには児童数施設の面からのなやみが大きいようにみられる。

3. 4年生参加についての問題点

(1) 指導教師に問題がある。

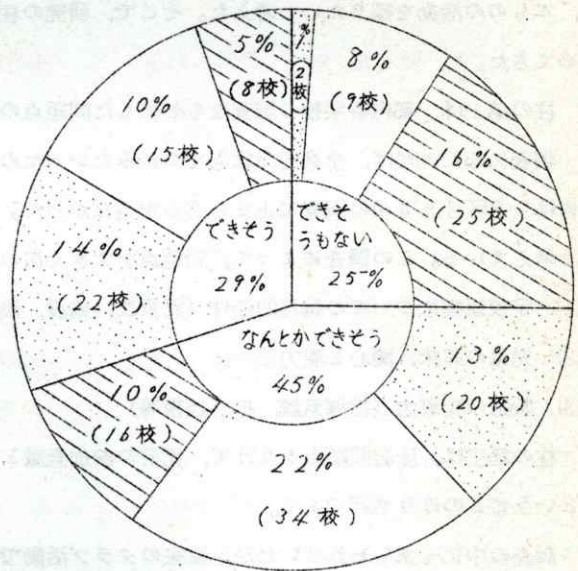
指 導 教 師	学校規模	校数
	2クラス平均	23校
	3クラス平均	44校
	4クラス平均	27校

(5学級以上も4学級に含む)

現在4年生が参加しているのは2学級平均以下の小規模校にいくらかみられるが、4学級以上の学校では参加させている学校がみあたらなかった。

4年生参加の見込み

— 9区(市)154校 —



2クラス平均以下
 3クラス平均
 4クラス以上

指導教師について問題ありとの返答をされた校数は左の表であり、大規模だからとか、小規模だからということは直接関係のない問題のようにみられる。どの規模にも指導教師は問題なのであろう。

一般には児童数がふえてくれば、指導教師もふえて

くるから数の上では問題がなさそうに見えるが、担当教師の配分については、出張、休暇等によって担当者不在で指導ができなくなるよう日どりや担当教師の数について配慮しなければならない。

教師に対する一ばんの問題は、クラブ活動に対する認識のしかたではないだろうか。クラブ活動は同好の児童によって組織され、彼等の自主的な計画が重要視されるものであるが、教師にあまりに熱意がありすぎて教師自身の計画で活動がすすめられ、児童の主体性が生かされなかったためについていけなかったという例もあり、また、その反対にまったくなげやりで教育的な指導がなかったために活動が停滞し、次年度の所属希望調査のときに、そのクラブを希望する児童がゼロになってしまった例もある。

指導者である教師がクラブの特質をよく理解していないために活動が低調になることが多い。教師には児童の自発的・自治的な活動を育てる指導力が必要なのである。

(2) 児童の能力差、興味・関心のちがいに問題がある。

	能力差	興味・関心のちがい	児童の能力差とか、学年差による 興味・関心のちがいについては学校 規模に直接関係があるようにはみう けられない。
2クラス平均	20校	17校	
3クラス平均	25校	27校	
4クラス以上	22校	15校	

育てられる能力そのものの解釈が問題のように思われる。技能的な面を中心にとりあげられてはいないだろうか。技能だけを問題にすると4年生には針が使えないから手芸クラブの活動には無理だとか、ボールをける力が弱いからサッカークラブで高学年といっしょにゲームすることができないとか、というようなことばも出てくるのである。クラブ活動での能力ということは後述の通りだと考えるのである。だからこれは、クラブ運営の方法でのりこえられはしないだろうか。A校の郷土クラブの例をみよう。11月には「これからの郷土の町はどうなるか考える」という目標で活動した。この際、都市計画、交通機関の将来などは、主として5、6年生が担当し、子どもの楽しい広場など子どもに関連することは4年生が考えるという方法を取り、4年生もりっぱに活動できたことが報告されている。

単に技能ということだけでなく心理学的な面からの「心の傾き」ということも考えなくてはならないであろう。4年生にも「やろう」「やってみたい」という意欲は強い。この意欲をたいせつに育てていくべきではないだろうか。

社会性ということも忘れてはならない。活動を通じてこれが育成されなければいけないはずである。44年度から4年生を参加させた学校(3クラス平均)の教師は、4年と5年6年とでは体力や技能に差があり、研究テーマを選ぶときや実際活動の際にその技能差を埋め

るための苦勞はあるが、学年をこえた人間関係を深め、リーダーシップや協調性などの育成に役立ち、4年生は十分楽しく活動していたと報告されている。

(3) 児童数、施設、設備に問題がある。

学校規模	児童数	施設・設備
2クラス平均	9校	17校
3クラス平均	30校	51校
4クラス平均	52校	49校

児童数や施設・設備に関しては、大規模な学校と小規模の学校とでは問題としてとりあげる差が大きい。

2学級平均以下という学校ではクラブの形がつかないからという理由で2年前ぐらいから4年生を参加させているという例もあって、小規模校では児童数はあまり問題ではないようである。しかし、小規模校でも施設・設備が4年生を参加させると支障のでてくる学校もいくらかみられる。

大規模校のなやみは大きい。児童数が多ければクラブの数をふやせばよいという考えもでてくるが、ある程度ふやすことは可能であっても児童の興味・関心の発達からみて、限度がある。理科クラブの中を天文・気象・地学・物理・化学というところまで細分し、クラブとして独立させることは特殊な例を除いて困難ではないだろうか。また、クラブのなかで、グループをいくつかに分けて活動させる方法も考えられるだろう。

実験クラブのような場合には器具数にも制限がある。

施設面で、いちばん問題になるのは体育関係のクラブであろう。どの学校でも体育関係のクラブへの希望者は多い。校庭、体育館、屋上をフルに利用しても収容できる人数、クラブ数には限度がある。児童数が多すぎて施設をフルに利用しても運営ができず、半期交代をとっている学校もある今日、さらに4年生を参加させたらどうなるのだろう。

II. 児童の参加意識とクラブ活動で育てられる能力

1. 児童はクラブ活動で何を学んでいるか。

児童については「学級でのふつうの授業とちがって、クラブ活動だから自分の勉強になったということ」を、教師は「自分の担当しているクラブで、特に児童のどのような点をのぼそうとして指導しているか」を、自由記述で調査した。その内容を、およそ次のように分類整理してみた。(児童5, 6年102名, 教師62名, 1月19, 21日)

児 童		教 師		
A	<ul style="list-style-type: none"> ○協力しあうようになった ○人の立場を考えるようになった ○自分たちでやれる ○他の学年となかよくなった 	34%	<ul style="list-style-type: none"> ○協力して活動させる ○自主的に活動させる ○集団としての実践力を育てる 	33%
B	<ul style="list-style-type: none"> ○自分でやれるようになった ○進んでやれるようになった ○おわりまでやるようになった 	21	<ul style="list-style-type: none"> ○自主的な態度を育てる ○実践力を育てる。 ○自分で計画をたてられる 	22
C	<ul style="list-style-type: none"> ○うまくなった ○やり方がわかった ○新しいことを覚えた など 	45	<ul style="list-style-type: none"> ○技能を身につけさせる ○応用力をつける ○創造力を育てる など 	45

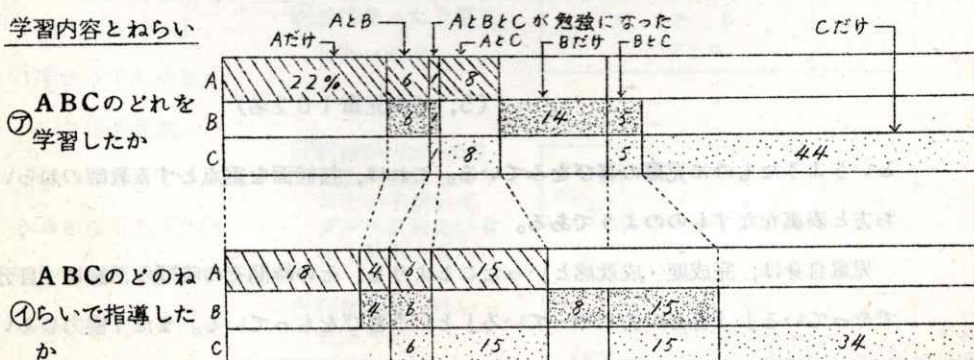
A 集団活動への参加態度が成長したというもの

B 個人の態度が成長したというもの

C 所属クラブ独自の内容(教材)を学習したというもの(主に技能的なもの)

この表でわかるように、児童が学習したものと教師のねらいとが、ほとんど一致した結果になったが、Cの技能面が半数におよぶことがわかった。そこで、ひとりひとりについてみると、

学習内容とねらい



Aだけを書いた児童が22%, AとBを書いたのが6%, ABCにわたって勉強になったというのはわずか1%ということがわかった。(グラフ参照)ここでも技能面であるCが多く、クラブ活動で技能面が勉強になったという意識をもっている児童がかなりいる。

このことは、④のグラフにあらわれたように技能面(C)だけを特に指導のねらいとしている教師が34%もいることと関連するようと思われる。もちろん、クラブ活動の特質からいっても、このようなねらいをもつことは必要であるが、特別教育活動の本質から考えると、AやBのねらいがもつともたれてよいのではあるまいか。

また「四年参加は、能力的に無理がある」という考え方は、教師のねらいが、C中心であるということと無関係ではあるまい。

すなわち、クラブ活動における児童の能力を、知識、技能などを中心にとらえているためともいえよう。グラフ⑦にみられるように、AやBを勉強できたとする児童が半数を占めることは、クラブ活動で育てるべき能力を示唆しているように思える。

2. 児童の興味、関心はどうか

(1) 児童はどんなとき満足感をえているか

グラフ⑧のように、児童は、実践活動の場にいちばん楽しさを感じているようである。ところが、教師は、完成したとき・うまくできたときというように、一つの到達点への達成度

児童の満足感

	すきなものをやっている 調べている 40%		協力・みる 教えあう 21	新しい 学習 11	完成・う まかった 10	計画ど おり 8	向 上 4	相 談 表 3	ほめられた! ↓ 2
⑧児童自身									
⑨教師の眼	13	5	11	35	17	5	3	8	3

(5, 6年児童102名)

というようなものに児童の喜びをみている。これは、技能面を重点とする教師のねらいのもち方と表裏をなすものようである。

児童自身は、完成度・成就感といったことよりも、その時間その時間の活動に「自分たちでやっている」「自分の力でやっている」という喜びをもっている。また「協力しあいながらやる」「教えあってやる」というそのことに楽しさを感じている。

五つの運動クラブ（計99名）をせまい校庭や屋上・体育館にわりふって活動させているのに、運動クラブの児童がみな楽しくやっているというS校が、そのよい事例の一つといえよう。

しかし、このことからすぐに「クラブ活動の時間は、ただやりたいことをやらせておけばよい」とするのは早計である。「自分たちでやりたいことを計画し、自分たちでその計画に従って1時間1時間を協力しあって活動する」ことができるような配慮・助言をしてやることが、指導のポイントとなってくるのではないだろうか。技能面の向上という教師の意図が表面に出すぎるところに、学年差・能力差の問題も生じてくるように思われる。

(2) 6年児童は4年生参加をどう思っているか。

右のグラフからわかるように、特に否定的なのは㊸話し合い、㊹仕事の分担である。その理由としては「むだ話が多くなる」「へた」「無理だろう」「忘れるだろう」など、6年生と同じレベルを期待している傾向が強い。しかし、できる困らない理由には、「教えてあげる」「助けてあげる」「手伝ってあげる」という指導意欲、「自分にとってもプラスになる」「集団活動を身につけたい」「4年生でもクラブにはいれば同じなか

四年生が参加すると

(6年児童60名)

㊶いまのクラブが

もっと楽しくなる 45%	同じ 36%	楽しくなくなる 19%
-----------------	-----------	----------------

㊷計画をたてる話し合いが

できる 44%	うまくいかない 56%
------------	----------------

㊸係りや役わりをきめるとき

別に困らない 55%	困る 45%
---------------	-----------

㊹活動するとき

別に困らない 67%	困る 33%
---------------	-----------

㊺助けあったり協力しあったり

できる 73%	できない 27%
------------	-------------

㊻技術がへただったり失敗が多かったりおそい子がいてグループにいきょうがあっても

気にしない 22%	気になるがなにかよくやれる 49%	困る 29%
--------------	----------------------	-----------

㊼4年生がはいったほうが

よい 26%	どちらでもない 35%	はいらないほうがよい 39%
-----------	----------------	-------------------

ま」という参加態度への意欲，そして「失敗しても忘れてあげられる」「四年生だからしかたない」という上級生らしい心がまえ，が多くみられる。

ここでも，(1)の場合と同じように，実践活動そのものに視点をあてて，4年生の参加を可能と考えもっと楽しくなるだろうと予想している。

これらのことから，4年参加の場合の担当教師は，6年生の以上のような意欲をうまく伸ばす助言をするとともに，6年児童の危惧，不安をのりこえて活動できるよう配慮してやることが，指導の1つの課題となる。

(3) 4年児童はクラブ活動にどんな意欲をもっているか。

5，6年生といっしょにやりたいという意欲(㊤) 74%とうらはらに，㊦話し合いでは80%ができないと

いま，どこかのクラブにはいつている。その他の質問に対してできないと答えた理由のほとんどが「自信がない」「ま

ちがったらはずかしい」「5，6年になにかい

われたらいやだ」「知らないことが多い」と

いった不安感である。しかし，それでも「努力する」という㊤㊦㊧

にみられる80%の児童の意欲は，「クラブ

活動は楽しそうだ」「おもしろそうだ」という㊤のやりたい理由の強さを意味しているものと思われる。すなわち，4年児童のク

㊤ 5・6年生といっしょに楽しく

できる 69%	できない 31%
------------	-------------

(4年児童 62名)

㊦ 計画をたてる話し合いが

できる 20%	できない 80%
------------	-------------

㊧ 係りや役わりをきめるとき

できる 15%	努力する 77%	できない 8%
------------	-------------	------------

㊨ 活動するとき

できる 10%	努力する 79%	できない 11%
------------	-------------	-------------

㊩ 助けあったり協力しあったり

努力する 88%	できない 12%
-------------	-------------

㊤ 5・6年生といっしょにやりたいと

思 う 74%	思わない 26%
------------	-------------

ラブ活動に対する興味，関心は，きわめて高いものがあるといってよいのではなからうか。

6年児童の4年生に対する指導意欲などから考えると，前述したように，教師の指導助言に

よっては、4年児童の不安感は6年生を中心にした集団活動の中で解決されるであろう。というよりも、むしろこのような4年児童が会員になることによってこそ、より望ましい集団活動を展開する条件がそろうようにさえ思われる。担当教師は、このような立場から、ひとりひとりの児童の不安や障害をとらえ、クラブの成員が同好のなかまとしてそれらの児童をうけいれ、より楽しい活動へ志向し実践するように配慮していきたいものである。

3. 学年差・能力差はどうか。

四年参加校では、グラフ㉞のように明らかに学年差・能力差が、活動を阻害しているとしている。そしてその主な原因として㉟-㊱のようにやや学年差が多く、また四年不参加校に比べてもいちじるしい。

これを内容的にみると「四年は五・六年ほどの技能がない」ということであって、学年差と

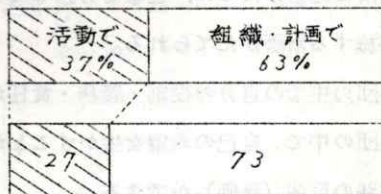
担当クラブで、学年差・能力差が阻害になっているか。



㉟ 阻害要因



㊱ 阻害していない理由



(教師 64名)

いうことを、能力差と同じに考えることもできるが学年差とは発達段階を強調しているとみることが適当であろう。

また、阻害になるとしているのは、手芸クラブ・卓球クラブなどが多く、ここでも前述と同じに、教師のねらいが技能の向上に比重をかけすぎため、技能の差が障害となるとみているように思われる。このことは、児童の活動を阻害しているというより、むしろ教師の技能指導を阻害しているといえよう。

障害になっていないと答えた教師の理由としては、

- 能力（ここでは知能・技能などを意味していると思われる）の低い児童は低いなりに活動させている。
- 能力にあった分担をして活動させている。
- 能力の低い児童は、グループ編成で配慮している。
- 計画のとき、その児童にあった活動内容をもりこませる。

などが その主なものである。

このことと、障害要因が主として技能面であることとをつきあわせてみると、学年差能力差というものは、第一に、クラブ活動のねらいを正しく認識することによって解消できるといえよう。また第二とは、計画づくり組織づくりなどの段階で第一にあるねらいにそくした指導助言することによって解決できるように思う。

4. クラブ活動で育てられる能力とは何か。

以上のような、調査をとおしての考察とクラブ活動のねらいの分析によって、われわれは、クラブ活動の中で育てられる能力を次のようにおさえてみた。

ア. 各クラブやクラブ活動全体の計画、運営に関する話し合いができる。

- ① 自発的・自治的に組織づくりができる。
- ② 全員の協力によって所属するクラブを楽しい集団として運営していくための話し合いができる。
- ③ 創意・くふうをして計画がたてられる。
- ④ 円滑な運営のために、仕事を分担していくことができる。
- ⑤ 実施する計画がたてられる。
- ⑥ 集団の中での自分の役割・義務・責任が自覚できる。
- ⑦ 集団の中で、自己の希望を生かすことができる。
- ⑧ 実践の反省（評価）ができる。

イ. 共通の興味・関心を追求していくことができる。

- ① 自発的、自治的に共通の興味、関心が追求できる。
- ② 他の成員と協力してできる。
- ③ 自己の希望を生かしながら、集団として興味・関心の追求ができる。
- ④ 創意・くふうをして活動できる。
- ⑤ 集団の中で自分の役割・義務・責任を果たすことができる。
- ⑥ 根気よくやりとげることができる。

- ⑦ 反省にたつて、また実践するという研究的態度ができる。(自己評価ができる)
- ウ、クラブの実践を発表したり 学校行事や児童活動の諸活動に協力参加できる。
- ① 自発的・自治的に、発表や協力参加の計画がたてられ活動できる。
 - ② 他の成員と協力して発表できる。
 - ③ 効果的に発表できる。
 - ④ 他のクラブ、委員会などへの連絡のための話し合いができる。

III 組織・運営のくふう

1. 運動場の利用をくふうした例

(1) 運動クラブを細分した例

S校は都心部にあるが周囲はアパートにかこまれ、交通もはげしい。空地や遊園地がほとんどなく下校後外で遊びたくとも遊べないようなところにある。児童がスポーツをする機会という和学校にいる間しかない。

加えて、児童の体力は低く走力、投力など都平均以下である。学校では体力づくりが目標の一つになっていて、機会をみて運動することを勧めている。

運動の好きな児童、その上、上記のようなことも影響して運動クラブへの希望者は多い。

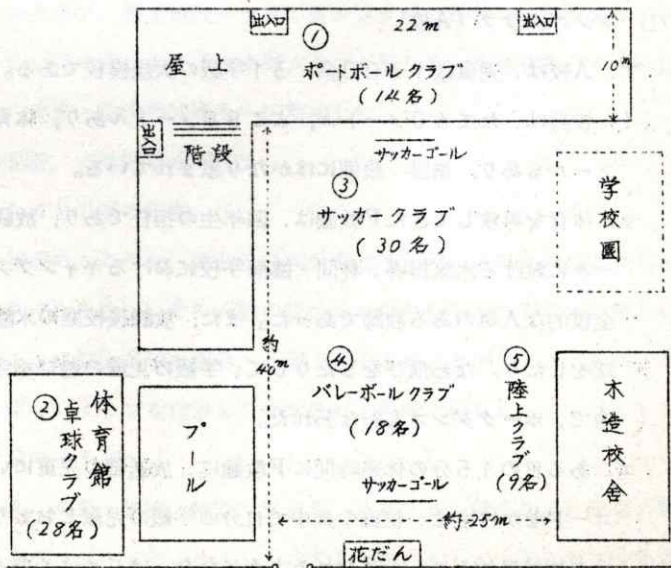
そこで施設の許すかぎりそれを活用することにして運動クラブを5クラブに細分し発足させた。

S校施設利用の例 (5年生94名、6年生86名、計180名)

これは学校規模としては中ぐらいの学校の例である。校庭、体育館、屋上を利用して

雨天の場合には教室で話し合いや研究をするとか、体育館で合同して体操をしたりして運営している。

サッカーやバレーボールがゲームをする時、



また陸上クラブがトラックを利用する時は話し合いでゆずり合うことにもなっている。

狭いところの利用なので児童に不満が多いように考えられるが、実際には意識調査をしてみると、このクラブが楽しいし来年も続けたいと答えている児童が多いのである。クラブを細分したため児童も特に興味の強いクラブに入部し年間自主的な計画で活動できるため活動は活発になっている。

4年生を参加させてもS校の場合はこの方法でまだやっつけられる見通しである。活動のしかたをくふうすればよい。屋上にはまだあいている部分もある。興味や関心の高まりつつあるバドミントンや、フリーテニスを増設することも考えてよいと思われる。

2. 新しいクラブの開発

調査を見ると、18学級前後の学校では、クラブの設置数が大体平均10前後となっているが、30学級前後の大規模校においては、平均15前後となっている。これを見てもわかるように、参加人員が増大するにしたがってクラブの数をふやし、収容人員を増大して一クラブの人員が多くなりすぎるのを防いだり、特定クラブへ集中するのを防いだりしていることが明らかである。四年生参加によって生じる一クラブの構成人員の多人数化・特定クラブへの集中化の問題を解決するために新しいクラブの開発・設置ということも一つの方法である。

新しいクラブを増設するといっても、ただ指導者側の都合だけで、これこれのクラブを新しく設けるからといって活動しろということは、児童の興味・関心を最大限に生かしているとは言えない。新しいクラブの開発は、何よりも児童の興味・関心の開発という路線ですすめなければならない。

(1) ダンスクラブ (A校)

ア. A校は、児童数1300余・31学級の大規模校である。

イ. 校庭は、たて60メートル、よこ80メートルあり、体育館、25メートル6コースのプールもあり、施設設備にはかなり恵まれている。

ウ. 体育を専攻してきたF教諭は、四年生の担任であり、放課後の陸上競技の選手指導、プールにおける水泳指導、林間・臨海学校におけるキャンプファイヤーの指導などを通じて、全校的な人気のある教師であった。また、放課後校庭の木陰でみんなで歌を唱ったり、野球をしたり、なわ飛びをしたりして、学級の児童の遊び相手をよくしていた。その遊びの中で、ホークダンスも行なわれた。

エ. ある日の15分の休憩時間にF教諭は、放送部の児童にいいつけて、マイムマイムのレコードをかけさせ、校庭の真中で自分の学級の児童とおどらした。

オ. これが昼休みにも行なわれるようになり、はじめはこのダンスを知っている上級生の女

子がぼつぼつ仲間にはいっておどっているだけであったが、日がたつうちに男子もはいるようになり、下級生たちはまわりで身振りをまねしたりしていたが、おもいきって中にはいっておどるようになった。

カ. 1週間もすると、1年生までがおどりだし、1年生から6年生まで入りまじっていく重にもおどりの輪ができ、半数ぐらいの先生方までが、休み時間になると外に出て児童といっしょにおどるようになり、非常に楽しい雰囲気ができあがった。

キ. その後、数曲を消化するまで大変盛んであった。

ク. こういうことは、ある種の流行みたいなところがあり、1か月もたつとだいぶ下火になったが、また思い出したように盛んになるというぐあいに、波のうねりのように今でも続いている。

ケ. この区では、臨海学校に4校ぐらいが一つの班を作り参加するのであるが、そこでの休憩時間に、A校の児童がホークダンスを始めたら、他の3校の児童もだんだんに輪に加わり、手をつないでおどりだし、うちとけあって、その後の臨海学校の生活を非常に有意義にしたというエピソードもある。

コ. 翌年度、クラブ活動に関する希望調査をしたところ、今までなかったダンスクラブの設置を望む声が大変多かった。

サ. 入部申込みを受け付けたところ、450名中 女子約80名・男子約30名の申し込みがあった。

シ. 全員希望どおり入部を認め、指導者を3名つけた。

ス. 校庭は、ソフトボールクラブ、陸上競技クラブ、ダンスクラブが使い、体育館はポートボールクラブ、玄関が広いのでそこと廊下を卓球クラブが使用し、器械体操クラブは屋上を利用することになり、施設・設備の問題も一応解決した。

(2) フリーテニスクラブの創設 <港区S小学校>

ア. クラブ員240名から480名の倍増

クラブが5、6年の構成のところへ、新しく4年が参加すると、その人数はどうしても5割はふえるとみなければならない。その人数の受け入れ態勢をとるひとつに、新しいクラブの増設がある。今ここに港区S校の場合、6年240名のクラブ員のところへ、5年240名が加わって、新しいクラブを増設した例をあげ、参考に供したい。

イ. 11のクラブから19のクラブへ

43年度までは、音楽、映画、読書、舞踊、社会科、理科工作、絵をかく、書道、家庭科、運動、体操の11のクラブへ6年が参加したのであるが、新しく5年が参加すること

になり児童の希望を尊重した19のクラブ、読書、書道、演劇、社会科、動くものを作る、化学実験、飼育、栽培、絵をかく、物をつくる、音楽、家庭科、茶道、写真、卓球、フリーテニス、陸上ができた。

ウ. 運動希望を容れるため、フリーテニスクラブ創設

児童の希望はどうしてもスポーツが多く、卓球を除いた、運動部門の希望が100名であった。狭い運動場をどのように使うか、頭痛の種であった。ちょうどその時、新聞にフリーテニスの紹介がのっており、しかも狭い運動場しかもたない職場で普及されているとのである。早速運動具店より1セットとりよせ、児童に知らせ入部をすすめたところ、21名(後期には48名にふえる)あった。女の先生が担当し、運営やルールなど児童にまかせてあるが、人気のあるクラブとして成長している。

エ. 子どもの作文「楽しいフリーテニスクラブ」

フリーテニスクラブは、他のクラブとちがって、めんどろな規則がないので自由で楽しいクラブです。自分たちでくふうして、実用的でやりやすいルールをどんどん作っていきます。人数が多いので、4、5人から7、8人ぐらいの小さなグループに分かれ、屋上と校庭に分かれてやります。卓球の2倍ぐらいの大きさのラケットで、庭球ボールの2分の1ぐらいのフリーテニス用ボールがありますが、屋上では風にとばされないしよくはずむし、金網から出ない庭球ボールを使います。たて6m、よこ3mのコートのまん中にネット(ぼくらは平均台)をはり、2人で打ちあいます。時にはコートを広くして、2人对2人のダブルスでやることもあります。風の強い日は、バウンドさせる所をネットの近い所にしようなどということも決めました。最初の頃は、一発うったらおしまいであつたが、なれてくるとうまくなり、打ちあえるので楽しくなります。とに角用意もかんたんですし、校庭のすみでもできるし、楽しみながらからだをきたえるクラブです。テニスの基礎にもなります。

3. クラブ統合の例(球技クラブを設置したS校)

ア. S校は 児童数1200余名 30学級の大規模校である。

イ. 校庭の広さは たて60m よこ60m 正方形であり、その周囲には鉄棒・砂場・ジャングルジム 雲梯などの体育施設があり、実際には50メートル四方ぐらいしか利用できない。体育館 25メートルプールがある。

ウ. 今までこの校庭で、サッカークラブ、ソフトボールクラブ、ポートボールクラブ、体操クラブが活動していた。

エ. 大変せまく 十分な活動が望めず、児童にも不満が多かった。

オ.そこで、サッカー、ソフトボール、ポートボールのクラブ員を一堂に集め、他の球技に対する興味・関心を調査したところ、やはり現在自分のはいつているクラブを一番やりたいが、三分の二以上の児童が他の球技もやってみいたいという気持ちをもっていることがわかった。

カ.三つのクラブを合計すると約85名だが、校庭の四すみをホームベースとしてダイヤモンドを作り、1チーム10名ずつとすると8チームで全員が時間いっぱいソフトボールのゲームができ、ポートボールだと三面、サッカーだと二面ぐらいのコートがせまいながらもとれ、パスやシュートの練習をしながらうまく交替すると、むだなく校庭を利用できることを説明した。

キ.三つのクラブを統合し、三つの内容を季節に合わせて実施することを助言し、球技クラブを設置することになり、指導者を4名担当した。

ク.児童たちの話し合いにより、2か月ごとに活動内容を交替することが決定した。

ケ.その後、ソフトボールクラブから転じた児童の中に多少の不満はあるが、ポートボール・サッカーの指導に力を入れ、そのおもしろさを感じとらせるような方向で活動を進めてきた中で、しだいに興味・関心が深まりつつある。

4. クラブ活動参加以前の指導

希望するクラブを自分で選択する・活動への意欲を高める・楽しい活動ができるようになるために参加前の指導が大切な役割をもっているのはいうまでもない。(くわしくは昨年度集録参照)。ここでは四年生参加という視点からこのことを考えてみたいと思う。

前にも述べたように、四年生を新しく参加させる場合に生じる問題点に、児童数増加にともなうクラブ構成員の多人数化、なかでも特定のクラブに集中するという傾向、したがって施設設備の不足をきたすというのがある。私たちはこの点の解決策の一つとして、クラブ活動参加以前の指導が非常に大切であると考えている。

児童は、自分の興味を見きわめることが困難であるし、希望するクラブをあまり理解しないで選んでいるという事実も多い。適切な参加以前の指導を行ない、一時の興味や友だちのさそいに簡単にのっての決定、自分の特性・能力を無視しての決定を防ぐことによって、ある特定のクラブ・めだつクラブへ多人数の児童が集中するという問題がある程度解決できるのではなかろうか。

(1) 日常さまざまな機会を通じて予備知識を与える。

ア.クラブ作品・クラブニュース等の展示などをとおして。

イ.朝の全校児童集会での発表(児童朝会)などをとおして。

器械体操クラブがコの字形に並んだ前校児童の前で15分ぐらい マット運動やとび箱

の運動などクラブの成果を発表する。

別の日に、球技クラブが、ポートボールの練習風景や試合をみせる。

器楽クラブが、器楽合奏を披露する、など。

ウ。児童集会への協力参加などとおして。

児童会主催の一年生を迎える会・卒業生を送る会・水泳や陸上の記録会に出場する選手をはげます会などに協力参加して、鼓笛クラブが入場行進・校歌・退場行進の伴奏をしたり、工作クラブがプラカードの作成をひきうけたり、美術クラブが装飾をうけもったり、するなど。

エ。学校行事等への参加などとおして。

展覧会・運動会・学芸会など 学校行事等に対して、児童集会への参加と同じような参加のしかたをとおして、全校児童にクラブの存在や活動内容を知ってもらう。

(2) 見学することによって知識を深める。

前記のような方法で得た知識は、とかくクラブ活動の表面に現われた形だけのものについてになりがちである。参加前の児童（三年生）が実際のクラブを見学して、そこにある共通の興味・関心・連帯感・自治的なすがた、あたたかい人間関係などを見たり感じたりするようになることもたいせつである。

(3) 体験的活動をさせてみる。

クラブ活動についていくらかわかってきたら、適切な時期をとらえて学年内（三年生）、学級内で、できるだけ希望者の多いクラブを二・三決定し、模擬クラブ活動を実施してみる。実際に活動してみて、自治的な運営のむずかしさや楽しさが主体的に感じとられてくるだろう。「一日クラブ」など実際に参加してみることも考えられる。

(4) 学級指導をとおして理解を深める。

ア。クラブ活動の意義

イ。クラブ選定の基本的態度

ウ。クラブ活動の研究的態度

などクラブ活動への参加の心構えや楽しさについて「学級指導」として、担任から指導を受けるということも考えられるのではなからうか。

(5) 3年学級クラブ <D小学校>

ア。クラブ活動の発足

3年に実験的クラブ活動が発足したのは、器楽クラブの発表会が直接的な原因であった。即ち、11月中旬「ぼくたちも、グループで何かやりたい。」というような声が出た。学

級会で話しあった結果、「ぼくたちも、学級で5、6年のようなクラブ活動をやってみよう。」ということになった。

イ. クラブの種類と所属の決定

そこで、学級計画委員会は、教師の助言で5、6年の器楽クラブに特別参加していない人たちにアンケートをとって見た。結果は次のようであった。

- 資料1
- ① あなたは、4、5、6年生がやっているクラブ活動のことを知っていますか。
○知っている (57%) ○よく知らない (43%)
 - ② あなたは、いまクラブ活動をやりたいと思いますか。
○やりたい (71%) ○やりたくない (10%)
○どちらともいえない (19%)
 - ③ あなたは、クラブをつくってどんなことをしたいと思いますか。
○理科的内容 (実験・生物などの研究) 体育的内容 (野球, サッカー, ポートボール, バドミントン, 卓球など) 絵をかく, 工作, 読書, 習字, 新聞づくり, 古いお金の研究

実験などを含む理科的内容は、施設、指導者などの関係で、実施するには困難がある。結局、児童たちに理由を話し、納得してもらい、次のようなクラブを決定した。

所属の決定については、

資料2

クラブ名	器楽	読書	絵	工作	習字	計
人数	14	6	4	4	7	35

器楽クラブに参加していない21名が4つのクラブに分かれるだけなので

あまり問題はなかった。

ウ. 時間と場所

- 学級のクラブ活動をする時間は、児童との話し合いで、毎週火曜日 (但し担任出張の時などは木曜日) の放課後、約45分間実施することになった。またその期間は、12月から3月初旬までの間という計画である。4つのクラブは、各々、机を寄せ合って活動の場所を作るのである。少しにぎやかになるが、担任の目が届くので都合がよい。

エ. 学級クラブ活動の計画と実践

資料3	読書クラブ	絵のクラブ	工作クラブ	習字クラブ
活動の計画	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の好きな本を読む ○読書感想文を書く ○読書感想文の話し合いをする ○みんなで紙芝居をつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ○花など静物の写生する ○友だちの絵をかく ○デザイン、ポスター作り ○共同で絵をかく 	<ul style="list-style-type: none"> ○細木や原紙を使って好きなものをつくる (橋、家、広告塔、動くおもちゃ、のりものなど) ○話しあって共同で何か作る 	<ul style="list-style-type: none"> ○硬筆習字の練習 ○毛筆で書き初めの練習 ○マジックでポスターの字をかく
発表	<ul style="list-style-type: none"> ○紙芝居を子ども会で発表 ○感想文の掲示 	<ul style="list-style-type: none"> ○作品の掲示 	<ul style="list-style-type: none"> ○作品の掲示 	<ul style="list-style-type: none"> ○作品の掲示

オ. 考察

3年におけるクラブ活動は、4、5、6年で実施しているクラブ活動との間には、直接的なつながりはない。しかしこの活動がはじまってまもなく、同学年の他の学級の児童たちも、見たり聞いたりしているうちに、自分たちの学級でもやりたいという意欲がもり上がってきた。これは意義があることである。

3年の時クラブ活動を経験することは、4年になってクラブ活動をする場合、無理なくできるのではないかと思う。

(6) 3年生の特別参加 <D小学校>

本校では、4、5、6年の児童は全員、クラブ活動に参加している。器楽クラブだけは、3年からの希望が認められている。始業前や放課後、クラブ員は各パートに分かれ、先輩から、いろいろ技術のアドバイスを受れたり、みんなで集まって合奏したりして、練習にはげんでいる。器楽クラブの児童は、「音楽が好きだから……」「うまくなりたいから……。」などといって入部したものが多く、したがって活動は非常に熱心である。

活動時間は、1年を通して、1週に3～4日・始業前、放課後、月曜日の7校時（定例）に行われている。

（考察）

器楽クラブのように、学年や個人に技能差はあるにしても、各パートに分かれて活動するなど、グループの作り方、活動のしかたによっては、じゅうぶん補うこともできるはずである。クラブ活動は、3年から参加できるものと、無理なものがあるように思う。器楽クラブの他に絵をかく、読書、書道、舞踊なども参加可能と考えられる。4年生では、うんと自由な形でゆったりとした気分で参加させてみることも考えてみてよいのではないだろうか。

Ⅳ. 研究の反省

1. 新指導要領の実施をひかえた、移行措置一年目として、調査によって 都内実践の概要と4年参加についての問題点を探り得たことは、研究のスタートとして意義があった。ただ調査の範囲が9区154校に止まったことによって、地域的なひろがりのせまさから、部分的であるといううらみはあるが、大筋はとらえられたと思う。

今後、地域や学校の実態に即した、具体的実践の中から問題点を発見し、その解決をめざしていきたい。

2. 問題点の中から、「児童の参加意識」と「クラブ活動で育てられる能力」とをとりあげ、これを実践的に追求していったことは、4年参加を可能に導びく第一条件であったと考えている。しかし、このことは、やはり、具体的な実践の中で、各学校の教師が、そして担当教師が、各学校の実状に即して、たしかめながら実践し、実践しながらたしかめていかなければならないことである。

3. 組織、運営のくふうについては、規模の大きな学校の4年参加の実践例はのせることはできなかったが、施設、設備の活用とか、児童の興味、関心のほりさげ、開発、等、それに役立つと思われる例をあげることができた。

今後、クラブ活動研究部として、都内先進校の実践をできるだけ数多く紹介し、各校実施の便に供したいと考えている。

4. そのほか、4年参加を可能にしていくための、現有施設の活用と拡充という問題、それに関連して予算のうらづけ、新教育課程の実施にもなる活動時間の確保についての問題等話題にのぼった。

中でも、施設設備の活用と拡充、予算のうらづけということについては、4年参加実施についての中心的課題であろう。今後、各学校の実状に即して、積極的に解決していかなければならない問題である。

以上、本年度の研究は、解決策というよりも、4年参加についての考え方の方向づけと、問題点の洗い出しに終わったように思う。

研究はささやかなものであるが、都内各学校の実践にすこしでも役立てば幸甚である。この研究をすすめるにあたって、いろいろな障害をこえてご参加いただき、熱心にご研究いただいた幹事の先生方、そして私共の研究を陰ながら援助いただいた、幹事校の校長先生方、都特活役員、各区理事の諸先生方に厚くお礼を申しあげたいと思う。